

Pioneer *sound.vision.soul*

Pioneer



HDD/MEMORY STICK/CD/チューナー・
DSP メインユニット

DEH-P999HDD

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

[異常時の処置]

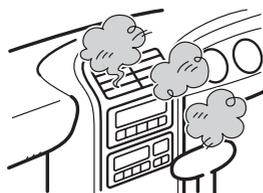
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

はじめに

1	本機の特長	8
2	ご使用になる前に	9
3	各部のなまえ	10
4	リモコンの準備	12
5	本機のリセットについて	13
6	時計・カレンダーを表示・調節する	14
7	フロントパネルの取り扱いについて	16
8	セレクションキーの操作について	18

ここだけで

ここだけ読めばすぐ使えます

1	聞きたいソース (音源) を選ぶ	20
	電源を切る	
2	CD/MP3 ファイルを聞く	22
	CD/MP3 ファイルを再生する	
	曲を選ぶ	
	早送り/早戻しをする	
	音量を調節する	
	CDを取り出す	
3	ラジオを聞く	24
	バンドを選ぶ	
	放送局を選ぶ	
	音量を調節する	
4	ミュージックサーバーにCDを録音する	26
	録音範囲を選ぶ	
5	ミュージックサーバーを聞く	28
	プレイリストファイルを選ぶ	
	曲を選ぶ	
	早送り/早戻しをする	
	音量を調節する	
6	“メモリースティック”を聞く	30
	“メモリースティック”を再生する	
	曲を選ぶ	
	早送り/早戻しをする	
	音量を調節する	
	“メモリースティック”を取り出す	
7	マルチCDでCDを聞く	32
	CDを選ぶ	
	曲を選ぶ	
	早送り/早戻しをする	
	音量を調節する	

CD

CDを聞く

1	モードの切り換えかた	34
2	同じ曲を繰り返し聞く	35
3	いつもと違う曲順で聞く	35
4	聞きたい曲をさがす	35
5	曲名を見て聞きたい曲をさがす	36
6	CD再生を一時停止する	36
7	CDのタイトルを入力する	37
8	タイトル表示を切り換える	37

MP3

MP3 ファイルを聞く

1	聞きたいフォルダーを選ぶ	38
2	モードの切り換えかた	38
3	同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く	39
4	いつもと違う曲順で聞く	40
5	聞きたい曲やフォルダーをさがす	40
6	曲名を見て聞きたい曲をさがす	41
7	MP3 ファイル再生を一時停止する	42
8	タイトル表示を切り換える	42

ラジオ

ラジオを聞く

1	放送局を1局ずつ記憶させる	44
2	記憶させた放送局を呼び出す	45
3	モードの切り換えかた	45
4	複数の放送局を自動的に記憶させる	46
5	放送局名を見て聞きたい 放送局を呼び出す	46
6	2つのアンテナで FM放送局を受信する	47
7	放送局名を選ぶ	47

録音

録音する

1	録音する前に	48
2	内蔵CD以外から録音する	49
3	モードの切り換えかた	50
4	録音する範囲を選ぶ	50
5	録音する音質を選ぶ	51

MSV

ミュージックサーバーを聞く

- 1 聞きたいプレイリストモードを選ぶ 52
- 2 お好みのプレイリストファイルを作成する 53
- 3 作成したプレイリストファイルを直接選ぶ 53
- 4 作成したプレイリストファイルから曲を消去する 54
- 5 モードの切り換えかた 54
- 6 同じ曲やプレイリストファイルを繰り返し聞く 55
- 7 いつもと違う曲順で聞く 55
- 8 聞きたい曲やプレイリストファイルをさがす 56
- 9 曲名を見て聞きたい曲をさがす 57
- 10 ファイル名を見て聞きたいファイルをさがす 57
- 11 ミュージックサーバー再生を一時停止する 58
- 12 いろいろなタイトルを入力する 58
- 13 聞きたいプレイリストモードを選ぶ 60
- 14 “メモリースティック” に音楽を転送する 60
- 15 曲または曲情報を消去する 61
- 16 タイトル表示を切り換える 63

MS

“メモリースティック”を聞く

- 1 モードの切り換えかた 64
- 2 同じ曲を繰り返し聞く 65
- 3 いつもと違う曲順で聞く 65
- 4 聞きたい曲をさがす 65
- 5 曲名を見て聞きたい曲をさがす 66
- 6 “メモリースティック”再生を一時停止する 66
- 7 ミュージックサーバーに音楽を戻す 67
- 8 曲を消去する 68
- 9 タイトル表示を切り換える 69

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

はじめに

CD を聞く

MP3 ファイルを聞く

ラジオを聞く

録音する

ミュージックサーバーを聞く

メモリースティックを聞く

マルチ CD で CD を聞く

1 枚型 MD で MD を聞く

マルチ MD で MD を聞く

テレビを見る

音を調節する

便利な機能と初期設定

その他 (付録)

マルチCD

マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチCDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|----|--------------------|----|
| 1 | 聞きたいCDを直接選ぶ | 70 |
| 2 | モードの切り換えかた | 70 |
| 3 | 同じ曲やCDを繰り返し聞く | 71 |
| 4 | いつもと違う曲順で聞く | 72 |
| 5 | 聞きたい曲やCDをさがす | 72 |
| 6 | 曲名を見て聞きたい曲をさがす | 73 |
| 7 | タイトルを見て聞きたいCDをさがす | 73 |
| 8 | CD再生を一時停止する | 74 |
| 9 | CDのタイトルを記憶させる | 74 |
| 10 | CDの音質を調整する | 76 |
| 11 | 聞きたい曲だけ記憶させておく | 77 |
| 12 | 記憶させた曲だけ再生する | 78 |
| 13 | 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す | 78 |
| 14 | 記憶させた曲をCDごとに記憶から消す | 79 |
| 15 | タイトル表示を切り換える | 79 |

1枚型MD

1枚型MDでMDを聞く

(別売の1枚型MDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|---|---------------|----|
| 1 | 1枚型MDのふだんの操作 | 80 |
| 2 | ファンクションモードの操作 | 81 |
| 3 | タイトル表示を切り換える | 81 |

マルチMD

マルチMDでMDを聞く

(別売のマルチMDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|---|---------------|----|
| 1 | マルチMDのふだんの操作 | 82 |
| 2 | ファンクションモードの操作 | 83 |
| 3 | タイトル表示を切り換える | 83 |

テレビ

テレビを見る

(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|---|------------------------|----|
| 1 | テレビのふだんの操作 | 84 |
| 2 | ファンクションモードの操作 | 85 |
| 3 | チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す | 85 |

音の調節

音を調節する

- | | | |
|----|--------------------|-----|
| 1 | オーディオ調節のポイント | 86 |
| 2 | イコライザーカーブを選ぶ | 87 |
| 3 | オーディオ調節モードの切り換えかた | 88 |
| 4 | 前後左右の音量バランスを調節する | 89 |
| 5 | 小音量時の音にメリハリをつける | 89 |
| 6 | イメージに合った演奏会場を再現する | 90 |
| 7 | イコライザーカーブを大まかに補正する | 91 |
| 8 | イコライザーカーブを細かく調節する | 91 |
| 9 | 騒音に合わせて音量を変える | 92 |
| 10 | 音場の中心で聞く | 92 |
| 11 | 車種に合ったタイムアライメントを選ぶ | 93 |
| 12 | タイムアライメントを調節する | 94 |
| 13 | サブウーファーを使う | 95 |
| 14 | 低い音を出力しないようにする | 96 |
| 15 | 各ソースの音量の違いをそろえる | 97 |
| 16 | オートイコライザーをON/OFFする | 97 |
| 17 | 音の歪みを補正する | 98 |
| 18 | オートイコライジングを行う前に | 99 |
| 19 | オートイコライジングを行う | 100 |

便利な機能

便利な機能と初期設定

1	瞬時に音量を小さくする	102
2	よく使う機能を直接操作する	102
3	交通情報を受信する	103
4	カスタムメニューの切り換えかた	104
5	表示画面を選ぶ	104
6	ディスプレイの明るさを調節する	104
7	夜間のディスプレイの明るさを切り換える	105
8	背景のパターンを選ぶ	105
9	エンタテインメントを表示させる	106
10	初期設定モードの切り換えかた	108
11	リバースモードをON/OFFする	109
12	フィーチャーデモをON/OFFする	109
13	外部機器の音声を聞く	110
14	外部機器の名称を入力する	110
15	ミュート/アッテネートを切り換える	111
16	“メモリースティック”を初期化する	111
17	RCA 外部出力から出力される信号を選ぶ	112

その他

その他 (付録)

1	CDについて	114
2	MP3 ファイルについて	116
3	“メモリースティック”について	117
4	故障かな?と思ったら	118
5	こんなメッセージが表示されたら	121
6	保証書とアフターサービス	127
7	用語解説	128
8	おもな仕様	130

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

はじめに

CD を聞く

MP3 ファイルを聞く

ラジオを聞く

録音する

ミュージックサーバーを聞く

メモリースティックを聞く

マルチ CD で CD を聞く

1 枚型 MD で MD を聞く

マルチ MD で MD を聞く

テレビを見る

音を調節する

便利な機能と初期設定

その他 (付録)

ミュージックサーバー

内蔵CDや組み合わせた機器から録音し、再生することができます。また、お好みの曲だけをまとめるなど編集することもできます。

自動タイトル取得機能

内蔵CDからミュージックサーバーに録音した場合、録音した曲のアーティスト名や曲名などの情報を本機に内蔵のデータベースから取得して表示することができます。

タイムスタンプ機能

ミュージックサーバーに録音するときに、本機の時計およびカレンダーを利用して、音楽データに録音日付を自動的に付与することができます。(本機をお使いになる前に必ず時計およびカレンダーを設定してください。)
(☞ はじめに⑥ 14 ページ)

“メモリースティック”プレーヤー

“マジックゲートメモリースティック”を再生することができます。また、ミュージックサーバーに録音した曲を“マジックゲートメモリースティック”に転送して持ち出すこともできます(チェックイン/チェックアウト(☞ その他⑦ 128 ページ))。

CD再生

音楽用のCD/CD-R/CD-RWを再生することができます。

MP3ファイル再生

MP3ファイルが記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RW(ISO9660 レベル1/レベル2(☞ その他⑦ 129 ページ)に準拠して記録されているもの)を再生することができます。また、拡張フォーマットには次の条件で対応しています。

Joliet : 8.3形式のみ対応。

Romeo : フォルダーネームは半角64文字、ファイルネームは半角63文字(括弧子含む)まで対応。

臨場感豊かなDSP機能

車室内の音響特性を測定し、自動的に音質補正を行う「オートイコライザー」機能や明確な音像定位を実現する「タイムアライメント」機能などによる臨場感豊かな音場を再現することができます。

別売のPCリンクキット対応

別売のPCリンクキット「例：CD-PC1」で作成した画像を本機に転送し、ディスプレイに表示させることができます。

*「CD-PC1」に本機のフロントパネルを取り付ける場合、「CD-PC1」の取付ガイドの向きを変更してください。

録音についてのご注意

録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前に試し録りをしてください。

本製品の故障、誤動作または不具合により録音されなかった場合の録音内容、および消失した録音データの補償については、ご容赦ください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ハードディスクについて

本製品の故障や不具合により、破損または消失した録音データの補償については、ご容赦ください。(現時点では音楽データのバックアップや修復には対応しておりません。)

本製品は、ハードディスクの増設やお客様によるハードディスクの交換はできません。

メモ

“MagicGate”、“MagicGate Memory Stick”、“Memory Stick”およびそれぞれのロゴはソニー株式会社の登録商標です。

Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のエンジンスイッチをON(またはACC)にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

ボイスコントロール機能付き製品の使用について

本機の“メモリスティック”とミュージックサーバーは、ボイスコントロール機能で呼び出すことはできません。また、ミュージックサーバーに録音した曲を音声認識に登録して呼び出すこともできません。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON(またはACC)のときに本機の電源をOFFにして5のボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能(エンタテインメント、SFCなど)の画面を表示して紹介する機能です。

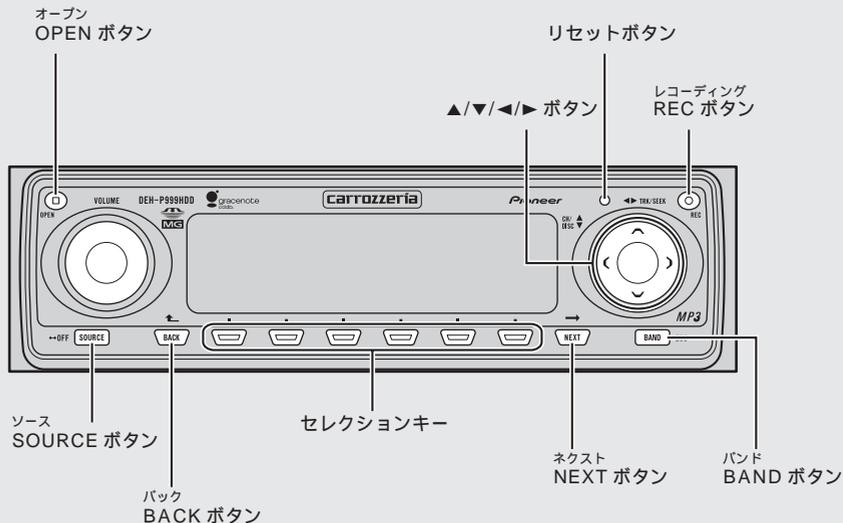
フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに6のボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

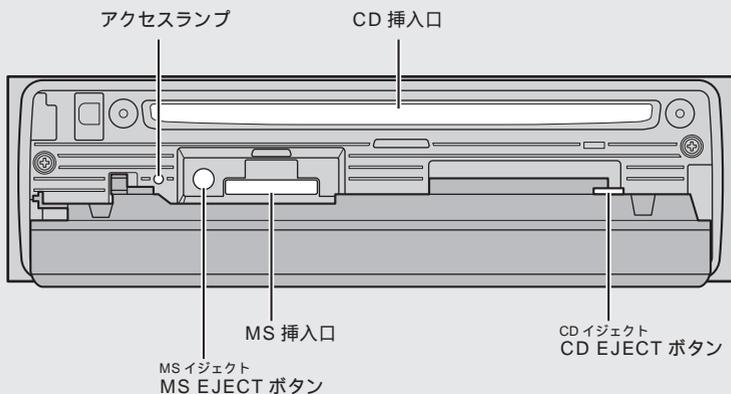
メモ

赤リード線(アクセサリ電源)は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

本体



フロントパネル開口時



セクションキーについて

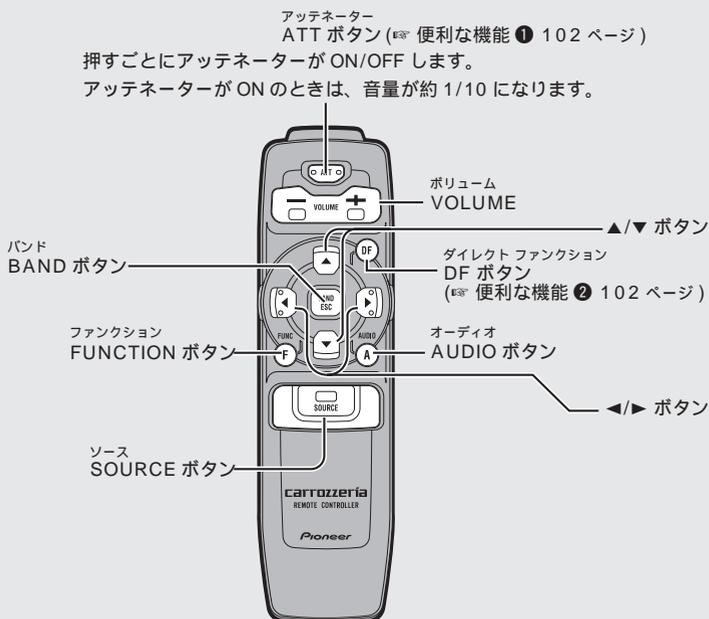
「セクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変化するボタンです。「セクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。

アクセスランプについて

アクセスランプは、データの書き込み中(チェックイン/チェックアウトなど)に点灯します。データが破壊される恐れがありますので、アクセスランプが点灯中は、「メモリースティック」を取り出さないでください。

リモコン

各ボタンは、本体の同じなまへのボタンと同じ動きをします。



FUNCTION ボタンについて

FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。

- (☞ CD ① 34 ページ)
- (☞ MP3 ② 38 ページ)
- (☞ ラジオ ③ 45 ページ)
- (☞ 録音 ④ 50 ページ)
- (☞ MSV ⑤ 54 ページ)
- (☞ MS ① 64 ページ)
- (☞ マルチ CD ② 70 ページ)

AUDIO ボタンについて

AUDIO ボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。(☞ 音の調節 ④ 88 ページ)

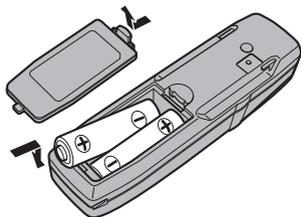
DF ボタンについて

DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ記憶されている機能を直接操作することができます。(☞ 便利な機能 ② 102 ページ)

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

裏フタを開けて、単4形乾電池 (R03) 2本をセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコン取り扱い上のご注意

リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。

VOLUMEを手前に出している場合、リモコンの効きが悪くなる場合があります。

乾電池は、充電しないでください。

リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

メモ

誤ってリモコンのBANDボタンを押しながらFUNCTIONボタンを押してしまうと、VOLUME、DFボタン、ATTボタンが効かなくなります。この場合、リモコンのBANDボタンを押しながらAUDIOボタンを押すと、元に戻ります。

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻りません。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後。

本機が正しく動作しないとき。

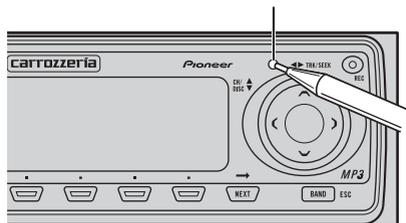
ディスプレイが正しく表示されないとき。

リセットボタンを押すと、本機の記憶（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す

リセットボタン

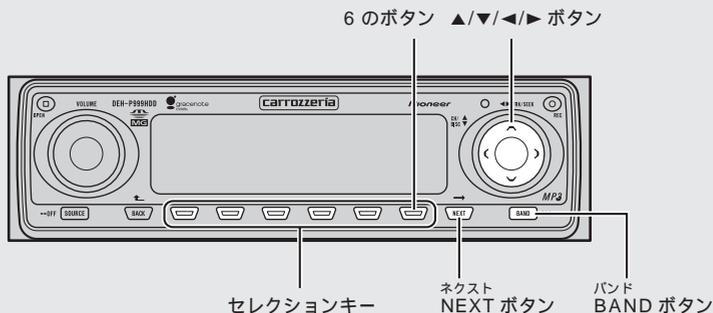


ご注意

リセット後は、必ず時計やカレンダーの設定（**はじめに** 14 ページ）を行ってください。時計やカレンダーを正しく設定しないと、ミュージックサーバーや“メモリースティック”が正常に動作しない場合があります。

メモ

ミュージックサーバーに録音した内容は、リセットボタンを押しても消えません。



はじめに
6

時計・カレンダーを表示・調節する

時計・カレンダー機能

本機の電源がONのときに時計を表示・調節することができます。

時計を表示する

1 “CLK” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CLK” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換えます。



2 時計表示をONにする

CLK ボタン、**ON/OFF ボタン**の順に押す

ON/OFF ボタンを押すごとにON/OFFします。



時計表示をONにすると同時に、“TIME” や “DATE”、“JUST” が表示されます。

3 時計・カレンダーモードを解除する

BAND ボタンを押す



時計表示

オフカレンダー表示

時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、6のボタンを押してデモモードをOFFにすると、時計表示とともにカレンダーを表示することができます。

メモ

時計モードは、約60秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

日付を設定する

1 時計を表示する

2 カレンダー調整モードにする

DATE ボタンを押す



3 日付の設定をする

年または月、日を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに年または月、日が切り換わります。

日付を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：日付を進めるとき

▼：日付を戻すとき

メモ

時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、フィーチャーデモをOFFにすると、カレンダーを表示することができます。

年は2001年から2050年までの範囲で設定できます。

時計を設定する

1 時計を表示する

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す



3 時計の設定をする

時または分を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに時または分が切り換わります。

時刻を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：時刻を進めるとき

▼：時刻を戻すとき

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

時刻を時報に合わせる

1 時計を表示する

2 時刻を時報に合わせる

JUST ボタンを押す

「分」が「00」になります。

例) 10:00 ~ 10:29 → 10:00
10:30 ~ 10:59 → 11:00

メモ

カレンダー調整モードを選んでいる場合、「JUST」は表示されません。

オープン
OPEN ボタン



はじめに
7

フロントパネルの取り扱いについて

別売のPCリンクキット「例：CD-PC1」をお使いになる場合、本機のフロントパネルの着脱ができるように固定ネジを外してください。



フロントパネルを開けたままで使用しない



禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

フロントパネルを外したままで走行しない



禁止

フロントパネルを外したまま自動車を走行させないでください。万一、事故が起きた場合、フロントパネルを外したままの本機に当たるとケガの原因となります。

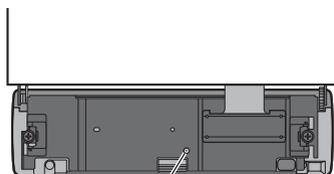
固定ネジについて

PCリンクキットをお使いにならない場合は、固定ネジを付けたままで本機をお使いください。

1 フロントパネルを開ける

OPEN ボタンを押す
フロントパネルが開きます。

2 ネジを取り外す



ネジ

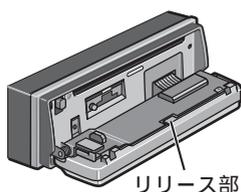
フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

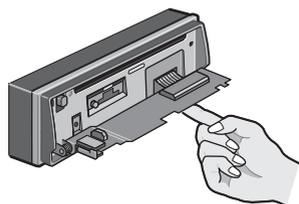
OPEN ボタンを押す
フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

リリース部を持ち、フロントパネルを
手前に引き抜く



3 中ボタンを閉める



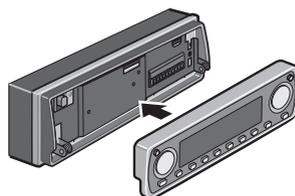
ご注意

データが破壊される恐れがありますので、アクセ
スランプが点灯中は、フロントパネルを外さない
てください。

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

フロントパネルを本体に“カチッ”と
音がするまで押し込む



メモ

フロントパネルを無理に引いて取り外さないでくだ
さい。

取り外し、取り付けの際に、ボタンやディスプレ
イを強く持たないでください。

落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでく
ださい。

高温になる場所や直射日光が当たる場所には置か
ないでください。

ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけない
でください。表面が侵されることがあります。

分解しないでください。

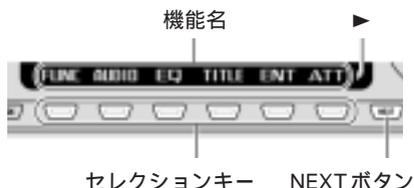
本体およびフロントパネルの端子部を触らないでく
ださい。接触不良の原因となることがあります。
また、端子部が汚れたときは、きれいな乾いた布
で拭いてください。

セレクションキーの操作について

この説明書では、ファンクションモードやオーディオ調節モードの操作は、セレクションキーを基本として説明しています。

セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変化するボタンです。「セレクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。また、「▶」表示は、セレクションキーに現在表示されている機能とは別の機能があることをあらわしています。「▶」が表示されているときにNEXTボタンを押すと、セレクションキーの機能を切り換えることができます。



この説明書では、「セレクションキー」での操作は表示される機能名をボタン名として説明しています。(例えば、「FUNC」と表示されている「セレクションキー」は、FUNCボタンと言います。)

基本画面について

CDを聞いているときなどの基本画面には、FORM 1とFORM 2の2つの表示方法があります。(※ 便利な機能 104ページ)

FORM 1



FORM 2



この説明書では、FORM 1を例に説明していますので、FORM 2を選んでいる場合、「セレクションキー」の表示が一部異なることがあります。

BAND ボタンとBACK ボタンの違いについて

BAND ボタンは、選んでいるモードに関係なく一度で基本画面に戻ることができます。(ラジオやテレビでは、モードを選んでいるときにBAND ボタンを押すと、バンド切り換えになります。)

BACK ボタンは、選んでいるモードを解除し、一つ前のモード(画面)に戻ることができます。

ガイド表示について

この説明書では、各モードの操作についてセレクションキーを基本として説明していますが、機能のON/OFFなど▲/▼/◀/▶ボタンでも操作できるものがあります。▲/▼/◀/▶ボタンでも操作することができるときは、ガイド表示が出ます。



表示の例	内容
	▲/▼/◀/▶ボタンで操作できます。
	▲または▼ボタンで機能のON/OFFができます。
	◀または▶ボタンで項目を選ぶことができます。



▲/▼/◀/▶ボタンで操作
できます。



▲または▼ボタンで機能の
ON/OFFができます。



◀または▶ボタンで項目を選
ぶことができます。

セレクションキーの操作 (例 : 内蔵CDのランダムプレイ)

1 “FUNC” を表示させる

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

FUNC RNDM EQ TITLE ENT ATT ▶

TI PAUSE CLK MENU ▶

FUNC RNDM EQ TITLE ENT ATT ▶ に戻る

2 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

ファンクションモードに切り換わり、セレクションキーの表示も次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN PAUSE ▶

3 ランダムプレイ設定モードにする

RDM ボタンを押す

ランダムプレイ設定モードに切り換わります。



4 ランダムプレイをONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ランダム再生がONになると、ランプが点灯します。

5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

ファンクションモードが解除されます。

メモ

セレクションキーは、選んだソースやモードによって、切り換わる機能や表示の数が異なります。セレクションキーの表示が出ていないボタンには機能がありません。この場合、そのボタンでは操作することはできません。

ランダムプレイ設定モード中では、▲/▼ボタンでもランダムプレイをON/OFFすることができます。

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。



ソース
SOURCE ボタン

テレビ、1枚型MD、マルチMDを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7700W」
1枚型MD	「MDS-P7000」
マルチMD	「MD-P100II」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作説明が行われている場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- 内蔵CD (MP3)
- テレビ (別売)
- ラジオ (FM/AM)
- ミュージックサーバー
- “メモリースティック”
- 1枚型MD (別売)
- マルチMD (別売)
- マルチCD (別売)
- External
(エクスターナルユニット1) (別売)
- External
(エクスターナルユニット2) (別売)
- AUX (外部機器) (別売)
- 内蔵CDに戻る

2 電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押す

本機の電源が切れます。

メモ

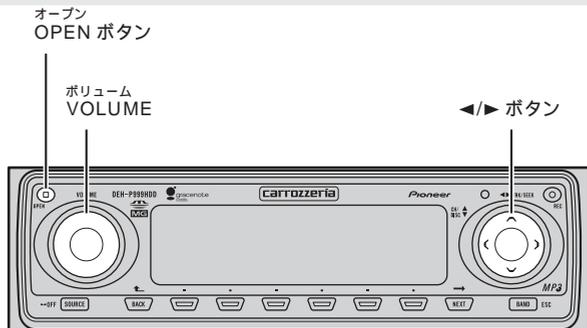
接続していないソースには切り換わりません。CDやMDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。

AUX (外部機器) の設定 (☞ **便利な機能** ⑩ 110ページ) をONにしないと、AUXには切り換わりません。

本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。

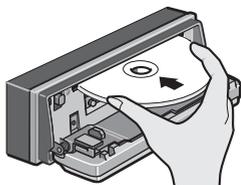
External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のExternal (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1、External2のどちらに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1、External2が自動的に設定されます。

ここだけの操作で、CDやMP3ファイルを聞くことができます。再生できるCDやMP3ファイルについて (☞ その他①、② 114、116 ページ)



1 CD を再生する

OPEN ボタンを押してフロントパネルを開け、CD を CD 挿入口に差し込む

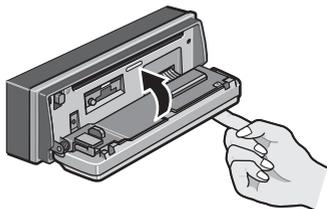


タイトル面を上にして差し込みます。自動的に再生が始まります。

ご注意

CDシングル (8 cm CD) もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対使用しないでください。

フロントパネルを閉める



2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

⚠ 注意

フロントパネルを開けたままで使用しない



禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

曲を選ぶ

早送り/早戻しをする

音量を調節する

CDを取り出す

トラックサーチ / 早送り/早戻し / 音量調節

ここだけ読めば
すぐ使えます

CD 再生中



再生経過時間 曲番号

MP3 ファイル再生中

MP3表示 ビットレート表示



再生経過時間 曲番号

ビットレートとは (☞ その他⑦ 128 ページ)

3 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

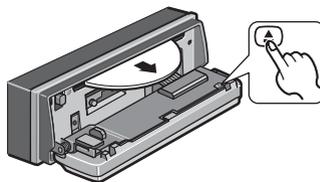
左回し：小さくするとき

音量は、0 ~ 40 の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

4 CDを取り出して再生をやめる

OPEN ボタンを押してフロントパネルを開け、CD EJECT ボタンを押す
CDが出てきます。



出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。

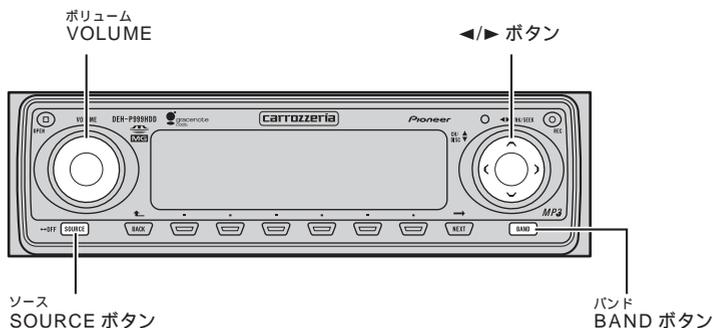
フロントパネルを閉める。(☞ 手順1)

CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを開めてください。

メモ

CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース(ラジオやマルチCDなど)に切り換えることもできます。(☞ ここだけで① 20 ページ)
 CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
 フロントパネルを開いた状態では、セレクションキーで操作することはできません。
 フォルダー分けされたMP3ファイル収録ディスクを再生している場合、フォルダーを切り換えることもできます。(☞ MP3① 38 ページ)
 「CD TEXT」など文字情報を記録しているディスクの場合、ディスクをセットしたり、トラックが切り換わったりすると、ディスクタイトルや曲名を自動的にスクロール表示します。

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。



1 ソースをラジオにする

SOURCE ボタンを押す

ラジオを受信します。

ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 FM-2 AM-1 AM-2 FM-1
に戻る

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(ラジオ④ 44、46ページ)

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのまま使いになれます。



3 放送局を選局する

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数の放送局を選局するとき
- ◀ : 低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満
自動選局	0.5秒以上

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。

電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき
音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

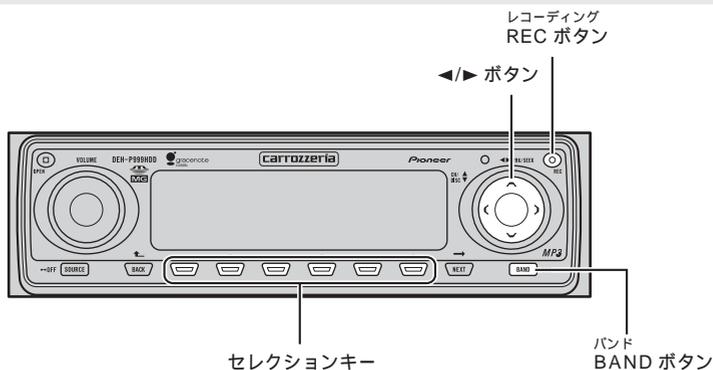
他のソースに切り換えるか、電源OFFにする (☞ ここだけで① 20ページ)

ここだけで

4

ミュージックサーバーにCDを録音する

CD-ROMから録音することはできません。また、著作権保護のためCD-RやCD-RWからも録音できない場合があります(SCMS)。(☞ **その他⑦** 129ページ)



1 CDを再生する

録音したいCDを入れる (☞ **ここだけで**
② 22ページ)
自動的にCDの再生が始まります。

2 録音待機状態にする

REC ボタンを2秒以上押す
“Ready”、“M.Server pause”の順に表示
され、録音待機状態になります。

3 録音モード設定 モードにする

FUNC ボタン、R.MODE ボタンの
順に押す

4 録音範囲を選ぶ

R.MODE ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように録音範囲
が切り換わります。

Disc Single Track Discに戻る

表示	録音範囲
Disc*	今聞いている曲からCDの最後の 曲まで録音します。
Single	CDの1曲目だけを録音します。
Track	今聞いている曲だけを録音します。

* ディスク録音(Disc)が中断された場合、中断
された曲から続けて録音することができます。
(☞ **録音④** 50ページ)

ビットレートについて

録音するときに、録音範囲だけでなく
ビットレートを選ぶこともできます。
ビットレートを選ぶことで、録音の音質
と録音可能時間が変わります。(☞ **録音**
⑤ 51ページ)

録音待機中

CDの曲番号 デジタル録音表示 録音範囲



CDの情報 ビットレート表示 録音可能な残り時間

録音中

録音中の表示



ミュージックサーバーの曲番号

録音可能な残り時間は、現在選んでいるビットレート (147.34) その他 (128 ページ) を基準に計算しています。

5 録音モード設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

(約30秒間、何も操作しなかった場合も自動的に解除されます。)

8 録音を終了する

BAND ボタンを押す

録音待機状態を解除し、録音を終了します。

6 録音したい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき

7 録音する

REC ボタンを押す

今聞いている曲のはじめから、自動的に録音されます。

自動的に録音が終わります。

“M.Server pause” が表示され、録音待機状態になります。

CDの情報について

録音待機中や録音中にDISPボタンを押すごとに次のように切り換わります。

録音範囲が“Disc”、“Continue”のとき
再生経過時間 ディスクの残り時間 ディスクのトータル時間 再生経過時間に戻る録音範囲が“Track”、“Single”のとき
再生経過時間 曲の残り時間 曲のトータル時間 再生経過時間に戻る

メモ

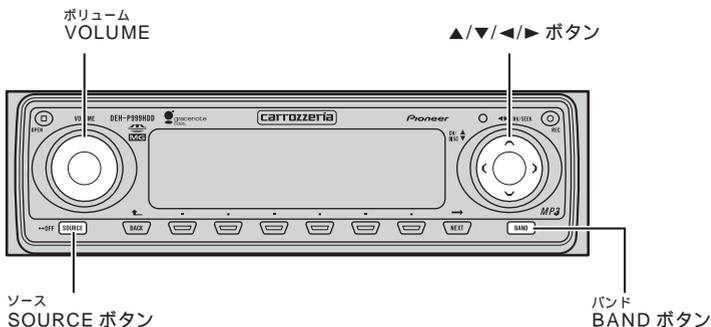
録音中にRECボタンを押すと、録音を中止することができます。

録音中にCDが音飛びした場合、その曲の始めに戻って録音をやり直します。(リトライ機能)

録音待機中は、今聞いている曲のリビート再生になります。録音を開始するとリビート再生は解除されます。

ランダム、トラックスキャン、ポーズを設定しているときは、録音待機状態になるとリビート再生に切り換わります。録音を開始するとリビート再生は解除されます。録音待機中は、早送り/早戻し操作はできません。

ここだけの操作で、ミュージックサーバーに録音した曲を再生することができます。



1 ソースをミュージックサーバーにする

SOURCE ボタンを押す

ミュージックサーバーの再生が始まります。

ご注意

ミュージックサーバーに何も録音されていない場合、“No audio”が表示されます。

2 聞きたいプレイリストファイルを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

- ▲：次のプレイリストファイルを選ぶとき
- ▼：前のプレイリストファイルを選ぶとき

プレイリストファイルとは (MSV ① 52 ページ)

メモ

BAND ボタンを押して、お好みのプレイリストモードに切り換えることもできます。(MSV ① 52 ページ)

内部での処理中に ACC の ON/OFF を行うと、“Processing” と表示されることがあります。この場合、表示が消えるまでお待ちください。

ビットレート表示



再生経過時間 曲番号

ビットレートとは (P. 128 ほか) 128 ページ

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき

音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 ミュージックサーバー 再生をやめる

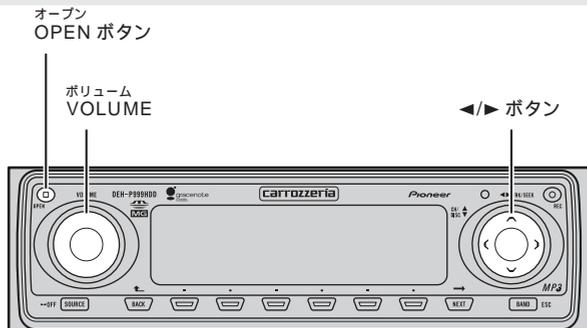
他のソースに切り換えるか、電源
OFFにする (P. 20 ほか) 20 ページ

ここだけで“メモリスティック”を聞く

“メモリスティック”を再生する

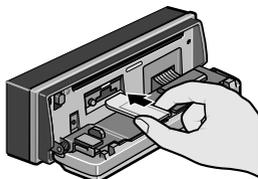
6

ここだけの操作で、“マジックゲートメモリスティック (MG メモリスティック)” を再生することができます。使用できる“メモリスティック”について (E3※ その他④ 117 ページ)



1 “メモリスティック”を再生する

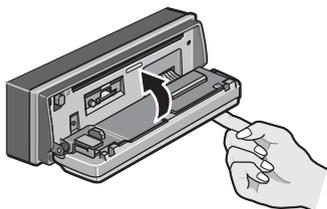
OPEN ボタンを押してフロントパネルを開け、“MG メモリスティック”をメモリスティック挿入口に差し込む



ラベル面を上にして「カチッ」と音がするまで差し込みます。

自動的に再生が始まります。

フロントパネルを閉める



2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

⚠ 注意

フロントパネルを開けたままで使用しない



禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

ビットレート表示



再生経過時間 曲番号

ビットレートとは (P. 128 ほか) 128 ページ

3 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

音量は、0～40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

メモ

“メモリースティック”をセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース(ラジオやマルチCDなど)に切り換えることもできます。(P. 20 ほか) 20 ページ

メモリースティック挿入口には、“メモリースティック”以外のものを絶対に入れないください。故障の原因となります。

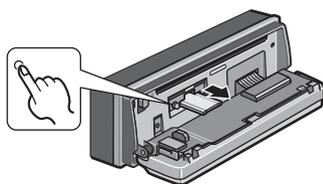
フロントパネルを開いた状態では、セレクションキーで操作することはできません。

“メモリースティック”をセットしたり、トラックが切り換わったりすると、曲名を自動的にスクロール表示します。

再生回数制限付きの音楽データを再生しているときは、再生回数を正しく管理するため、早送り/早戻しをすることはできません。

4 “メモリースティック”を取り出して再生をやめる

OPEN ボタンを押してフロントパネルを開け、MS EJECT ボタンを押す“メモリースティック”が出てきます。



出てきた“メモリースティック”はすぐに取り出して、保管してください。

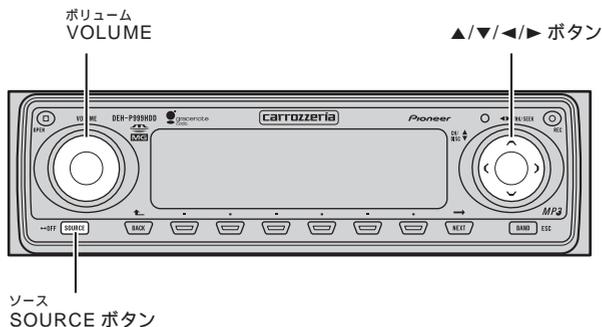
フロントパネルを閉める。(P. 手順 1)

メモリースティック挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを閉めてください。

ご注意

データが破壊される恐れがありますので、アクセスランプが点灯中は、“メモリースティック”を取り出さないください。

ここだけの操作で、マルチCDプレーヤーでCDを聞くことができます。



1 ソースを マルチCDにする

SOURCE ボタンを押す
マルチCDの再生が始まります。

2 聞きたいCDを選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : 次のCDを選ぶとき
- ▼ : 前のCDを選ぶとき

メモ

マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”が表示されます。

マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“No MAG”が表示されます。



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

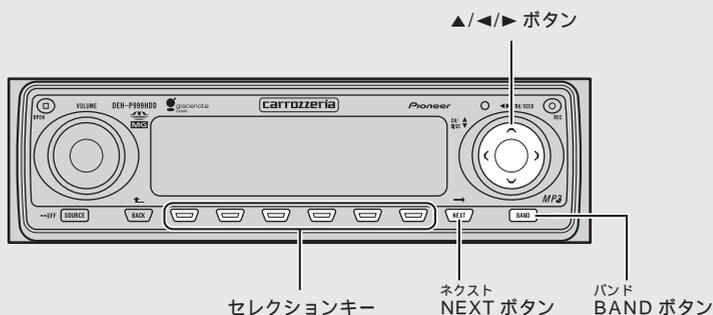
VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき

音量は、0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチCD再生を やめる

他のソースに切り換えるか、電源
OFFにする (P.20) **ここだけで!** 20ページ



CD 1 モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE

TTLin

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → PAUSE → TTLin → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)を選んでいる場合、自動では解除されません。

トラックリストモード(T.LIST)は、CD TEXT再生中のみ表示され、操作することができます。

CD
2

同じ曲を繰り返し 聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 リピートプレイ設定 モードにする

FUNC ボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 リピート再生を ON にする

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

CD
3

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

選曲を CD プレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

2 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

CD
4

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の始めの部分だけを、約 10 秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

2 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約 10 秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順 1 の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生を OFF にしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す

メモ

スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

CD
5

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

CD
6

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



CDのタイトルを入力する

ディスクタイトル入力

CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておく、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

タイトルの記憶のしかたは、マルチCDと同じです。(※ マルチCD ⑨ 74ページ)

タイトルは、10文字まで入力できます。

内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。

48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

タイトルを記憶させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。

マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。

タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせると、タイトル入力することができなくなります。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」(※ はじめに ⑨ 9ページ)再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティスト名
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティスト名
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティスト名
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

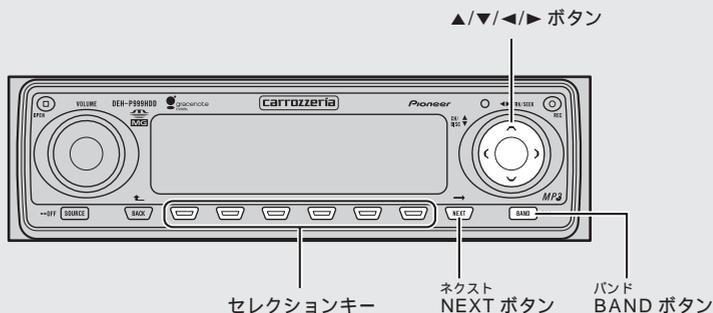
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティスト名などが記憶されていないCDで表示を切り換えると、“No artist name”などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。



MP3
1

聞きたいフォルダー を選ぶ

フォルダーを分けてMP3ファイルが収録されているディスクの場合、フォルダーを切り換えることができます。

1 聞きたいフォルダーを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

- ▲：次のフォルダーを選ぶとき
- ▼：前のフォルダーを選ぶとき



メモ

MP3ファイルを収録していないフォルダーを選ぶことはできません。

MP3
2

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN TLIST PAUSE

TITLE

RPT RDM SCAN TLIST PAUSE に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押しボタンモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → PAUSE → TTLin → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

CD-ROMには、タイトル入力することはできません。CD-ROM再生中にタイトル入力モード(TTLin)を選ぶと、“入力できません”と表示されます。

再生範囲について

再生範囲(繰り返し聞く範囲)は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Folder repeat	再生中のフォルダーを繰り返し再生します。
Disc repeat	本機にセットされているディスクを通して再生します。(通常は、このモードにしておきます。)

1 再生範囲切替モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切替モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート)

Folder repeat (フォルダーリピート)

Disc repeat (ディスクリピート)

Track repeat に戻る

メモ

フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲(MP3ファイル)だけを再生します。サブフォルダー(☞ その他 116 ページ)内の曲は再生されません。

MP3

4

いつもと違う曲順で
聞く

ランダム再生

フォルダー内の曲を、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

2 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

ランダム再生は、再生中のフォルダー内の曲(MP3ファイル)だけを再生します。サブフォルダー(その他 116 ページ)内の曲は再生されません。再生範囲をディスクリプレイにしているときは、再生中のフォルダーのすべての曲をランダム再生し終えると、次のフォルダーに切り換わりランダム再生を続けます。

MP3

5

聞きたい曲やフォル

今聞いているフォルダーの、曲の始めの部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのフォルダーの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (MP3 39 ページ)

聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。(サブフォルダー(その他 116 ページ)内の曲はスキャン再生されません。)

聞きたいフォルダーをさがすとき
(フォルダースキャン再生)

再生範囲をディスクリプレイに切り換えます。ディスク内のすべてのフォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

4 聞きたい曲(フォルダー)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときにSCANボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲(またはフォルダー)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

1 トラックリストモードにする

FUNCボタン、T.LISTボタンの順に押す



2 聞きたい曲名(フォルダー名)を表示する

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲(フォルダー)ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲(フォルダー)を選ぶ

聞きたい曲(フォルダー)と同じ番号のボタンを押す

選んだ曲が再生されます。

確認

フォルダーを選んだ場合は、選んだフォルダー内の曲名(フォルダー名)のリスト表示になります。聞きたい曲を選ぶには、手順2、3を繰り返し操作します。

メモ

◀/▶ボタンで聞きたい曲を選び、▲ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

▼ボタンを押すと、1つ前のリスト(1階層上のフォルダー)に戻ります。

曲名は、MP3のファイル名で表示されます。(ID3 Tagの曲名ではありません。)

MP3ファイル再生時は、必ず「ROOT」からのトラックリスト表示になります。

再生できないMP3ファイルだけのフォルダーやMP3ファイルを含まないフォルダーもリスト表示されます。

MP3
7

MP3 ファイル再生を一時停止する

ポーズ

MP3 ファイル再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 MP3 ファイル再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



メモ

次の表示の PAUSE ボタンでも、ポーズの ON/OFF をすることができます。

TI PAUSE CLK CD/CDU

MP3
8

タイトル表示を切り

ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやフォルダーネームを表示させることができます。16 文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

タイトル表示について

本機は、ISO9660 のレベル 1、レベル 2 (☞ その他 ⑦ 129 ページ) に準拠して記録されたディスクに対応しています。また、拡張フォーマットには次の条件に対応しています。

Joliet : 8.3 形式のみ対応。

Romeo : フォルダーネームは半角 64 文字、ファイルネームは半角 63 文字 (拡張子含む) まで対応。

ディスクタイトルやトラックタイトル、アーティストネームは、ID3 Tag (☞ その他 ⑦ 128 ページ) で入力したタイトルのみ表示されます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
FOLDER	フォルダーネーム
FILE	ファイルネーム
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
ARTIST	アーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
F+FIL	フォルダーネームとファイルネーム
FIL+T	ファイルネームとトラックタイトル
D+TRK	ディスクタイトルとトラックタイトル
TR+ART	トラックタイトルとアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

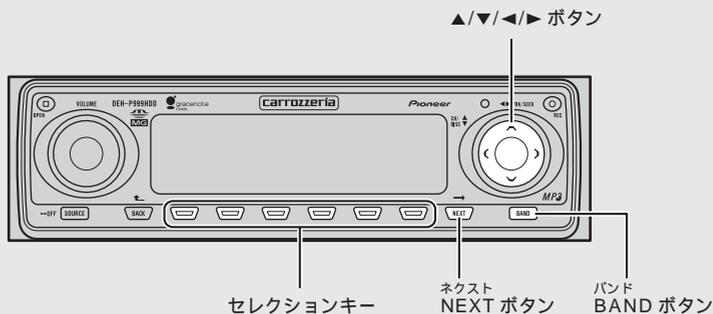
タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは12文字までになります。

アーティストネームなどが記憶されていないMP3ファイルで表示を切り換えると、“No artist name”などが表示されます。

タイトルが入力されていないMP3ファイルで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。

ラジオ
1

放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

1～6のボタンに、お好みの放送局を、1局ずつ手で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(☞ ここだけで② 24 ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで③ 25 ページ)

3 “1”～“6”を表示させる

NEXT ボタンを押す
“1”～“6”が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



4 記憶させる

1～6のボタンの1つを2秒以上押す



押したボタンの番号(記憶番号)が点滅します。

記憶が終わると点滅が終わり、押したボタンに受信中の放送局が記憶されます。

メモ

記憶させた放送局を呼び出すには (☞ ラジオ②)

記憶させた放送局を呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(13 ここだけで② 24 ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

記憶させた放送局を順番に呼び出す

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 次の記憶番号の放送局を呼び出すとき
▼ : 前の記憶番号の放送局を呼び出すとき

記憶させた放送局を直接呼び出す

1 ~ 6 のボタンの 1 つを押す

確認

“1” ~ “6” が表示されていないときは、NEXT ボタンで、“1” ~ “6” を表示してから操作してください。



受信中の記憶番号

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM chLIST FM-DIV

ST.SEL

BSM chLIST FM-DIV に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM → chLIST → FM-DIV → ST.SEL → BSM に戻る

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

FMダイバーシティ設定モード (FM-DIV) は、FM のときのみ表示され、操作することができます。

ラジオ
4

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6のボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

(ここだけで② 24 ページ)

2 BSM モードにする

FUNC ボタンを押す

BSMモード以外を選んでいる場合は、BSM ボタンを押す。

3 BSM を始める

BSM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



記憶が終わるとステーションリストモードに切り換わり、1のボタンに記憶した放送局を受信します。

4 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す

選んだ放送局を受信します。



いま受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

メモ

受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)の略です。
記憶させた放送局を呼び出すには (ラジオ② 45 ページ)

ラジオ
5

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6のボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中から選ぶことができます。

1 ステーションリストモードにする

FUNC ボタン、chLIST ボタンの順に押す



いま受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す

選んだ放送局を受信します。

メモ

表示されている放送局名が、受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。
(ラジオ⑦)
放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。

2つのアンテナでFM
放送局を受信する

FMダイバーシティ

FMダイバーシティをお使いのときは、ダイバーシティの設定をONにします。

FMダイバーシティについて

FMダイバーシティは、FM放送を2つのアンテナで受信するものです。ダイバーシティをONにすると、メイン用アンテナの受信感度が悪いときは、自動的にサブ用アンテナに切り換えて受信します。

FM放送を1つのアンテナで受信するときは、ダイバーシティをOFFにしてください。ONにすると、感度が悪くなったり、雑音が増加したりすることがあります。

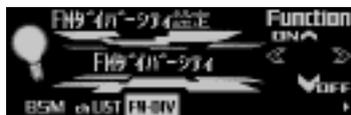
1 ダイバーシティ設定
モードにする

FUNC ボタン、FM-DIV ボタンの順に押す

2 ダイバーシティの設定を
ONにする

FM-DIV ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なります。表示されている放送局名が受信している放送局名と異なる場合、放送局名を変更することができます。

注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

放送局名選択 (つづき)

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、
放送局名選択モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ST.SEL ボタンの順に押す。

注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して (E37) ここだけで (E25 ページ) から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 次の放送局名を選ぶとき

◀ : 前の放送局名を選ぶとき



3 選んだ放送局名に変更する

▲ ボタンを押す

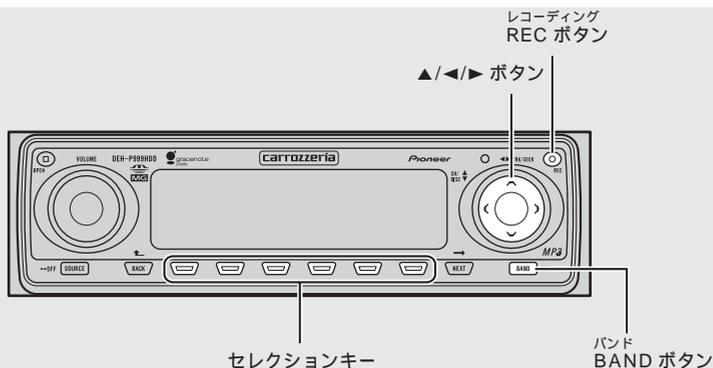
選んだ放送局名に変更されます。

メモ

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、「No data」と表示されます。

放送局名を表示させたくないときは、全て空白の表示を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD (「CDX-FM653など」) をお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を「FM M-CD」に変更して表示することができます。パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を「FM TVsound」に変更して表示することができます。

録音
1

録音する前に

録音する前に必ずお読みください。

録音についてのご注意

録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前に試し録りをしてください。

本製品の故障、誤動作または不具合により録音されなかった場合の録音内容、および消失した録音データの補償については、ご容赦ください。

本機は、ラジオから録音することはできません。

デジタル録音についてのご注意

CDなどからデジタル録音したものの(CD-Rなど)から、さらにミュージックサーバーにデジタル録音(コピー)することはできません。これは、孫コピーを防止するために開発された連続複製防止システム(SCMS)により定められています。

アナログ録音についてのご注意

アナログ録音は、2時間経過すると自動的に録音を停止します。同じプレイリストファイルに続けて録音したいときは、RECボタンを押して録音を再開してください。

デジタル録音とアナログ録音について

本機は、内蔵CDからミュージックサーバーへデジタル録音することができます。内蔵CD以外のソース(マルチCDやAUXなど)からの録音はアナログ録音になります。デジタル録音は、ほとんど劣化なく録音(コピー)でき、アナログ録音より高音質のため、CDからの録音は、内蔵CDから録音すること(☞ここだけで④ 26ページ)をおすすめします。

メモ

ミュージックサーバーの録音可能な残り時間が“00H00M”と表示されても、“M.Server full”と表示されるまでは録音することができます。

録音しようとしているCDのディスクや曲のトータル時間より、ミュージックサーバーの録音可能な残り時間が短い場合、“Time short”が表示され、ミュージックサーバーの残り時間分のみ録音します。

録音は、すべてステレオ録音になります。モノラル録音はできません。

「CD TEXT」の録音は、「CD TEXT」に収録されている文字情報までミュージックサーバーに記録することはできません。

次のような場合、録音待機状態が解除されます。

- * 電源をOFFにしたとき
- * 車のエンジンをかけたとき
- * ソースを切り換えたとき
- * BANDボタンを押したとき
- * 内蔵CD以外からの録音時にCDを挿入したとき
- * 録音元のソースとの接続がきれたとき(マルチCDから録音するときなど)

次のような場合、録音が解除されます。

- * 車のエンジンをかけたとき
- * RECボタンを押したとき
- * 録音元のソースとの接続がきれたとき(マルチCDから録音するときなど)
- * 内蔵CDやミュージックサーバーのエラーのとき(☞その他⑥ 121ページ)
- * 内蔵CDからの録音時に同じところで音飛びを3回起こしたとき

録音待機状態や録音中は、トラックスキップ機能には対応していません。不要な曲は録音後に、ミュージックサーバーから削除することができます。(☞MSV⑩ 61ページ)

内蔵 CD 以外から録音する

アナログ録音

本機と組み合わせた機器からも録音 (アナログ録音) することができます。

ビットレートについて

録音するときに、ビットレートを選ぶこともできます。ビットレートを選ぶことで、録音の音質と録音可能時間が変わります。(録音 51 ページ)

録音範囲について

内蔵 CD やマルチ CD/MD から録音するときには、録音範囲を選ぶことができます。(録音 4 50 ページ)

1 録音したいソースにする

(録音 ここだけで 20 ページ)

2 録音待機状態にする

REC ボタンを 2 秒以上押す

“Ready”、“M.Server pause”の順に表示され、録音待機状態になります。

例) マルチ CD の場合

ディスク番号および曲番号 録音範囲



CDの情報 ビットレート表示 録音可能な残り時間

マルチ CD/MD から録音する

録音モードとビットレートを設定することができます。

テレビ、AUX、External から録音する

ビットレートを設定することができます。

3 マルチ CD/MD から録音する場合、録音したい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

(録音 ここだけで 33 ページ)

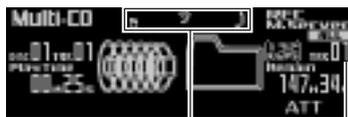
ご注意

曲を選んだら、すばやく手順4を行ってください。

4 録音する

REC ボタンを押す

REC ボタンを押した時点から録音が始まります。



録音中に表示されます。ミュージックサーバーの曲番号

マルチ CD/MD から録音するときに“Track”を選んだ場合、録音が終わると自動的に録音待機状態になりますので、次は手順6の操作を行ってください。

5 録音をやめる

REC ボタンを押す

“Ready”、“M.Server pause”の順に表示され、録音待機状態に戻ります。

6 録音待機状態を解除する

BAND ボタンを押す

メモ

録音元の CD および MD の音が一定レベル以下の状態が続くと、自動的に曲番が付きます。また、録音中に▲ボタンを押すと、曲番を付けたいところに手で曲番を付けることができます。(曲番は最大400曲まで付けることができます。)

録音元の CD および MD によっては、曲の途中を終わりと判断したり、曲の終わりの判断ができない場合があります。

録音中に CD および MD が音飛びした場合、そのまま録音されます。

テレビや AUX (外部機器)、External1、External2 (エクスターナルユニット) の操作について詳しくは(録音 それぞれの取扱説明書)

振動の多い道路などで録音すると、自動的に曲番が付くことがあります。

録音
3

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 録音待機状態のときにファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

R.MODE RATE

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

R.MODE → RATE → R.MODE に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

録音モード設定モード (R.MODE) は、CDやMDからの録音のときのみ表示され、操作することができます。

録音
4

録音する範囲を選ぶ

CDやMDから録音する場合、今聞いている曲だけを録音したり、今聞いているディスクを録音するなど、録音する範囲を選ぶことができます。

内蔵CDの録音範囲について

表示	録音範囲
Disc	今聞いている曲からCDの最後の曲まで録音します。
Continue	ディスク録音 (Disc) が中断された曲からCDの最後の曲まで録音します。(中断された曲以外を選んでも、録音を開始すると中断された曲から録音します。)
Single	CDの1曲目だけを録音します。
Track	今聞いている曲だけを録音します。

メモ

ディスク録音 (Disc) が中断された場合、再度録音待機状態にすると、継続録音 (Continue) になります。ただし、次のような場合、継続録音 (Continue) にはなりません。

- * エラーで中断したとき
- * 中断後にCDを取り出したとき
- * 中断後に“Track”や“Single”で録音したとき
- * 本機の黄リード線 (+ バッテリー電源) が外れて中断したとき

ディスク録音 (Disc) は、録音したい曲だけを選んで録音することはできません。不要な曲は録音後に、ミュージックサーバーから削除することができます。(MSV 61 ページ)

マルチCD/MDの録音範囲について

表示	録音範囲
All	今聞いている曲から録音を停止するまで録音します。曲およびディスクの頭出しはしません。
Track	今聞いている曲だけを録音します。曲の頭出しはしません。

ご注意

マルチCD/MDからの録音は、録音範囲に関わらず、曲やディスクの頭出しをしません。曲やディスクの始めから録音するには、曲やディスクの頭出しを行ったあと、すばやくRECボタンを押して録音を開始してください。

また、マルチCD/MDからの録音はアナログ録音です。CDから録音するときは、内蔵CDから録音(デジタル)することをおすすめします。

1 録音モード設定モードにする

FUNC ボタンを押す

録音モード設定モード以外を選んでいる場合は、R.MODE ボタンを押す。

2 録音範囲を切り換える

R.MODE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



内蔵CDから録音する場合

Disc (Continue) Single Track
Discに戻る

マルチCD/MDから録音する場合

All Track Allに戻る

1 録音ビットレート設定モードにする

FUNC ボタン、RATE ボタンの順に押す

2 録音ビットレートを切り換える

RATE ボタンを押す

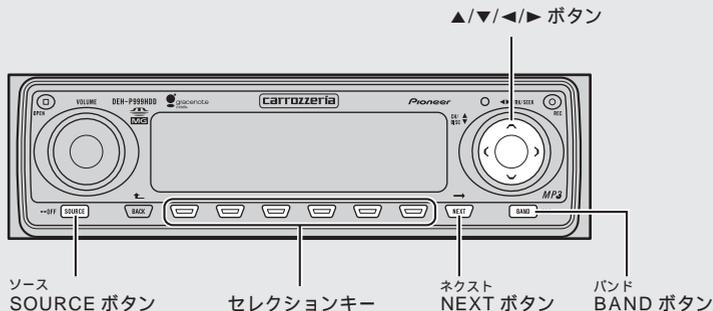
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



132 kbps 105 kbps 132 kbps に戻る

メモ

ビットレートは、デジタル録音とアナログ録音の設定を別々に記憶することができます。(前に設定したビットレートのまま録音したいときは、再度設定する必要はありません。)



MSV
1

聞きたいプレイリストモードを選ぶ

プレイリストモード選択

プレイリストモードは、録音時に録音条件によってグループ分けされたプレイリストファイルを使用し、聞きたいグループの曲だけを再生することができます。

プレイリストファイルについて

プレイリストファイルは、録音時に作成されるグループ別（録音日付やデジタル録音など）の曲情報（曲の保存場所など）リストです。1つの曲に対し、録音日付、デジタル録音、アーティストなど曲情報に合わせて複数のプレイリストファイルが作成されます。（音楽データは、録音日付別プレイリストにだけ保存されています。）

種類	内容
録音日付別	録音された曲と曲情報が、日付ごとに分けて保存されています。
デジタル録音単位別	デジタル録音された曲の曲情報が、1回の録音ごとに分けて保存されています。（録音範囲が“Disc”や“Continue”の場合はディスクごとに、“Track”や“Single”の場合は、録音開始から終了までが1つのプレイリストファイルになります。）
アナログ録音単位別	アナログ録音された曲の曲情報が、1回の録音ごとに分けて保存されています。
アーティスト別	デジタル録音したときに、内蔵のデータベースに該当するアーティスト情報があった場合、その曲の曲情報が、アーティスト別に分けて保存されます。
カスタム	お好みの曲の曲情報を登録することができます。

プレイリストモードについて

プレイリストモードは、次の中から選ぶことができます。

表示	再生するプレイリスト
All	録音日付別プレイリスト（録音されたすべての曲が再生されます。）
Digital	デジタル録音単位別プレイリスト
Analog	アナログ録音単位別プレイリスト
Artist	アーティスト別プレイリスト
Custom	カスタムプレイリスト

聞きたいプレイリストモードを選ぶ

BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



約2秒間表示されます。

All Digital Analog Artist Custom
Allに戻る

メモ

選んだプレイリストモードに何も録音されていないときは、“No PlayList”（または“ No audio ”）が表示されます。

MSV

2

好みのプレイリスト ファイルを作成する

カスタムプレイリストモードでは、CSTM1 ~ CSTM6のボタンに、好みの曲(曲情報)を記憶させ、再生することができます。

1 “CSTM1” ~ “CSTM6” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CSTM1” ~ “CSTM6”が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

2 記憶させたい曲のあるプレイ リストファイルを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

(ここだけで⑤ 28 ページ)

3 記憶させたい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

(ここだけで⑤ 29 ページ)

4 記憶させる

“CSTM1” ~ “CSTM6”のボタン
の1つを2秒以上押す



約2秒間表示されます。

ご注意

手順2で、カスタムプレイリストファイルを選んだ場合、選んだカスタムプレイリストファイルのボタンを2秒以上押すと、再生中の曲が消去されます。(MSV ④ 54 ページ)

メモ

1つのファイルに99曲分の曲情報を登録することができます。

曲の再生順は、記憶させた順になります。

既に記憶させた曲を再度記憶させると、重複して記憶されます。

記憶させたファイルを呼び出すには (MSV③)

MSV

3

作成したプレイリスト ファイルを直接選ぶ

ダイレクトサーチ

聞きたいカスタムプレイリストファイルにワンタッチで切り換えることができます。

1 “CSTM1” ~ “CSTM6” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CSTM1” ~ “CSTM6”が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

2 聞きたいカスタムプレイリス トファイルを選ぶ

“CSTM1” ~ “CSTM6”のボタン
を押す



メモ

“CSTM1” ~ “CSTM6”を表示しなくても、▲または▼ボタンでカスタムプレイリストファイルを選ぶこともできます。

MSV
4

作成したプレイリストファイルから曲を消去する

カスタムプレイリストファイルに登録した曲(曲情報)を消去することができます。

1 “CSTM1” ~ “CSTM6” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CSTM1” ~ “CSTM6” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

2 消去したい曲のあるカスタムプレイリストファイルを選ぶ

“CSTM1” ~ “CSTM6” のボタンを押す



3 消去したい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

(ここだけで 29 ページ)

4 消去する

選んだカスタムプレイリストファイルと同じ番号のボタンを 2 秒以上押す



再生していた曲が消去されます。

MSV
5

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → P.LIST → PAUSE → P.L.in → TRKin → ART.in → P.MODE → CHKout → ERStrk → ERSpl → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード (P.L.in、TRKin、ART.in) を選んでいる場合、自動では解除されません。

同じ曲やプレイリスト ファイルを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、今聞いているプレイリストファイルを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
PlayList repeat	再生中のプレイリストファイルを繰り返し再生します。
PlayList mode repeat	再生中のプレイリストモードを繰り返し再生します。

1 再生範囲切換モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切換モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート) PlayList repeat (プレイリストファイルリピート)
PlayList mode repeat (プレイリストモードリピート) Track repeatに戻る

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

プレイリストファイル内の曲を、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

2 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

再生範囲をプレイリストモードリピートにしているときは、再生中のファイルのすべての曲をランダム再生し終わると、次のファイルに切り換わりランダム再生を続けます。

今聞いているプレイリストファイルの、曲の始めの部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのプレイリストファイルの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (MSV 55 ページ)

聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をプレイリストファイルリピートに切り換えます。再生中のプレイリストファイルの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいプレイリストファイルをさがすとき (プレイリストファイルスキャン再生)

再生範囲をプレイリストモードリピートに切り換えます。選んだプレイリストモード内のすべてのプレイリストファイルの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲 (ファイル) が再生されたらスキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲 (またはファイル) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がプレイリストファイルリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

MSV

9

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

プレイリストファイルが切り換わると、トラックリストモードは自動的に解除されます。

MSV

10

ファイル名を見て聞きたいファイルをさがす

プレイリストファイルリスト

プレイリストファイルのタイトル一覧(プレイリストファイルリスト)を見ながら、聞きたいプレイリストファイルを選ぶことができます。

1 プレイリストファイルリストモードにする

FUNC ボタン、P.LIST ボタンの順に押す



いま聞いているファイルが反転表示されます。

2 聞きたいプレイリストファイル名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6ファイルずつ表示が切り換わります。

3 聞きたいプレイリストファイルを選ぶ

聞きたいプレイリストファイルと同じ番号のボタンを押す

選んだプレイリストファイルが再生されます。

メモ

◀/▶ ボタンで聞きたいファイルを選び、▲ ボタンで選んだファイルを再生することもできます。

ミュージックサーバーに何も録音されていないときは、“No audio”が表示されます。また、タイトルが記憶されていないファイルは、“No title”が表示されます。

MSV
11ミュージックサーバー
再生を一時停止する

ポーズ

ミュージックサーバー再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 ミュージックサーバー再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。

TI PAUSE CLK CD/CDU

MSV
12

いろいろなタイトル

ミュージックサーバーでは、プレイリストファイルにプレイリストファイルタイトルを、トラックにトラックタイトル(曲名)やアーティスト名を入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、プレイリストファイルやトラックのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておく、ミュージックサーバー再生時に入力したタイトルが表示されます。

タイトル入力中にプレイリストファイルが切り換わると、タイトル入力モードは自動的に解除されます。

タイトルはカナ、アルファベットなど20文字まで入力できます。漢字やひらがなの入力はできません。

内蔵データベース(※ MSV⑩ 63ページ)から取得した半角文字のタイトルが21文字以上の場合、本機で編集(入力)すると、21文字目以降は削除されます。

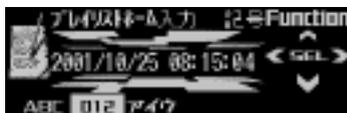
内蔵データベースから取得した半角文字のタイトルを変更する場合、一部の文字はタイトル入力画面で空白表示となります。

プレイリストファイルタイトルを入力するとき

内蔵データベース(※ MSV⑩ 63ページ)から漢字やひらがな入りのタイトルを取得した場合でも、本機で編集(入力)すると、入力したカナやアルファベットのみのタイトルになります。

1 プレイリストファイルタイトル入力モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、P.L.in ボタンの順に押す

2 タイトルを入力し、記憶させる
(※ マルチCD⑨ 74ページ)

CDタイトル入力の手順3~6を参照し、同様の操作でプレイリストファイルタイトルを記憶させてください。

トラックタイトルを入力するとき

1 トラックタイトル入力モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、TRK In ボタンの順に押す

2 トラックタイトルを入力したい曲を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき



選んだ曲番号が表示されます。

3 トラックタイトル入力画面にする

▲ ボタンを押す



4 タイトルを入力し、記憶させる (※ マルチ CD 74 ページ)

CD タイトル入力の手順 3 ~ 6 を参照し、同様の操作でトラックタイトルを記憶させてください。

メモ

トラックタイトル入力中に次の曲の再生になっても、入力中のタイトルは、選んだ曲に記憶されません。

アーティストネームを入力するとき

1 アーティストネーム入力モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ART In ボタンの順に押す

2 アーティストネームを入力したい曲を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

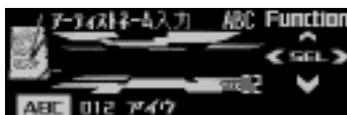
- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき



選んだ曲番号が表示されます。

3 アーティストネーム入力画面にする

▲ ボタンを押す



4 アーティストネームを入力し、記憶させる (※ マルチ CD 74 ページ)

CD タイトル入力の手順 3 ~ 6 を参照し、同様の操作でアーティストネームを記憶させてください。

メモ

アーティストネーム入力中に次の曲の再生になっても、入力中のアーティストネームは、選んだ曲に記憶されません。

本機で入力したアーティストネームは、アーティスト別プレイリストファイルには登録されません。

MSV
13聞きたいプレイリス
トモードを選ぶ

プレイリストモード選択

録音した曲をお好みに合ったプレイリストモード (MSV 52 ページ) に切り換えて聞くことができます。

1 プレイリストモード選択
モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、
P.MODE ボタンの順に押す

2 聞きたいプレイリストモード
を選ぶ

P.MODE ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わり
ます。



All Digital Analog Artist Custom
All に戻る

メモ

何も録音されていないプレイリストモードに切り換
えたときは、“No PlayList” (または “No audio”)
が表示されます。

MSV
14“メモリースティック”
に音楽を転送する

チェックアウト

ミュージックサーバーに録音した曲を “メ
モリースティック” に転送することができ
ます。

1 転送したい曲のあるプレイリ
ストファイルを再生する

▲ または ▼ ボタンを押す

(MSV ここだけで 28 ページ)

チェックアウト (つづき)

2 チェックアウトモードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
CHKout ボタンの順に押す

3 転送用 “メモリースティック”
をセットする

(MSV ここだけで 30 ページ)

4 “メモリースティック” に転送
したい曲を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき



選んだ曲番号が表示されます。

5 “メモリースティック” に転送
する曲を決定する

▲ ボタンを押す



確認画面になります。

6 選んだ曲を転送する

▲ ボタンを押す

選んだ曲がチェックアウトされます。

メモ

確認画面で ▼ ボタンを押すと、チェックアウトを
やめることができます。
プレイリストファイルが切り換わると、チェック
アウトモードは自動的に解除されます。
確認画面および転送中は、音量を調節できません。

録音した曲または曲情報を1曲ずつ消去することができます。

曲の消去について

プレイリストモードは、曲情報を収録しており、プレイリストでの曲の消去とは、曲情報の消去をいいます。ただし、「All」モードは曲情報だけでなく、曲自体のデータも収録しているため、「All」モードで曲を消去すると、曲情報だけでなく、曲自体のデータも消去されます。「All」と、「All」以外を選んでいる場合と確認画面が異なりますので、よく確認してから操作してください。

「All」を選んでいる場合



「All」以外を選んでいる場合



ご注意

一度消去すると、元に戻すことはできません。確認画面が表示されたときに、よく確認してから消去してください。

1 曲ずつ消去するとき

1 消去したい曲のあるプレイリストファイルを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで⑤ 28ページ)

2 1 曲消去モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタンを2回、ERStrk ボタンの順に押す

3 プレイリストファイルから消去したい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき



選んだ曲番号が表示されます。

4 消去する曲を決定する

▲ボタンを押す



確認画面になります。

5 選んだ曲を消去する

◀ボタン、▲ボタンの順に押す

「YES」を選び、曲を消去します。

消去をやめるときは

▶ボタン、▲ボタンの順に押して、「NO」を選びます。

メモ

プレイリストファイルが切り換わると、1曲消去モードは自動的に解除されます。「YES」選択中および消去中は、音量を調節できません。

1 曲消去/プレイリストファイル消去 (つづき)

プレイリストファイルごと消去するとき

1 消去したいプレイリストファイル
を再生する

▲ または ▼ ボタンを押す

( ここだけで  28 ページ)

2 プレイリストファイル消去
モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
ERSpl ボタンの順に押す

3 消去するプレイリストファイル
を決定する

▲ ボタンを押す



確認画面になります。

ご注意

「All」モードで曲を消去すると、曲情報だけでなく
曲自体のデータも消去されます。

4 選んだプレイリストファイル
を消去する

◀ ボタン、▲ ボタンの順に押す

「YES」を選び、プレイリストファイルごと
曲を消去します。

消去をやめるときは

▶ ボタン、▲ ボタンの順に押して、「NO」を選び
ます。

メモ

プレイリストファイルが切り換わると、プレイリ
ストファイル消去モードは自動的に解除されます。
「YES」選択中および消去中は、音量を調節でき
ません。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

プレイリストタイトルのほかにトラックタイトルやアーティスト名を表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。

内蔵CDからCDを録音した場合、本機内蔵のGracenote CDDDBのデータベースからプレイリストファイルやトラックなどのタイトルを取得することができます。(録音したCDの情報がデータベースにない場合、取得することはできません。)取得したタイトルに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

Gracenote CDDDBについて

Gracenote is CDDDB, Inc. d/b/a "Gracenote." CD-related data from Gracenote CDDDB®, copyright 1999, 2000, 2001 Gracenote. Gracenote CDDDB Client Software, copyright 1999, 2000, 2001 CDDDB, Inc. U.S.特許番号 No.5,987,525; No.6,061,680; No.6,154,773他、特許発行済み/申請中。

CDDDBはGracenoteの登録商標です。The Gracenote logo、Gracenote CDDDB logoは、Gracenoteの登録商標です。音楽認識技術とMRSは、Gracenoteのサービス商標です。

音楽認識技術とMeta-Database™は、GracenoteとThe Gracenote CDDDB® Music Recognition Serviceが提供しています。Gracenoteは、音楽認識技術及び関連コンテンツ配信分野での業界標準です。

更に詳しい情報は、以下のWWWサイトにてご確認いただけます。

<http://www.gracenote.com>



GracenoteとGracenote CDDDB serviceによって提供されたデータについては内容を100%保証するものではありません。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
P.L TTL	プレイリストファイルタイトル
T.TTL	トラックタイトル
ARTIST	トラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

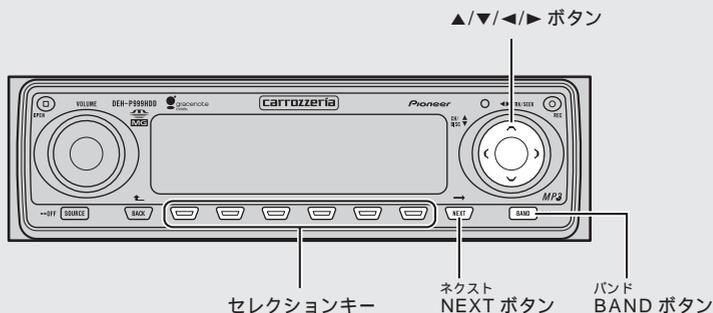
ボタン	表示内容
P.L+TTL	プレイリストファイルタイトルとトラックタイトル
TR+ART	トラックタイトルとトラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、▲/▼/◀/▶ボタンでプレイリストファイルや曲を選ぶことはできません。

FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティスト名などが記憶されていない曲で表示を切り換えると、“No artist name”などが表示されます。

MS
1

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE

CHK in ERStrk ERSall

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST →
PAUSE → CHK in → ERStrk → ERSall →
RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

MS
2

同じ曲を繰り返し 聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞きことができます。

1 リピートプレイ設定 モードにする

FUNC ボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 リピート再生を ON にする

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

MS
3

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

2 ランダム再生を ON にする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとに ON/OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

MS
4

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の始めの部分だけを、約 10 秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

2 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約 10 秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生を OFF にする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順 1 の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生を OFF にしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す

メモ

スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

MS
5曲名を見て聞きたい
曲をさがす

トラックリスト

曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

MS
6“メモリスティック”
再生を一時停止する

ポーズ

“メモリスティック”再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 “メモリスティック”再生を
一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



“メモリースティック”に転送した曲をミュージックサーバーに戻すことができます。

1 チェックインモードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、CHKIn ボタンの順に押す

2 ミュージックサーバーに戻したい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき



選んだ曲番号が表示されます。

4 選んだ曲を戻す

▲ ボタンを押す

選んだ曲がチェックインされます。

メモ

確認画面で▼ボタンを押すと、チェックインをやめることができます。

確認画面およびチェックイン中は、音量を調節できません。

3 ミュージックサーバーに戻す曲を決定する

▲ ボタンを押す



確認画面になります。

曲を消去する

“メモリースティック”内の曲を1曲ずつ、または全曲まとめて消去することができます。

“メモリースティック”に記録されている曲を本機で消去した場合、チェックアウトした曲のチェックアウト可能な残り回数は元に戻りません。(チェックアウト回数を元に戻すには本機で曲を消去せず、本機またはお使いのパソコンに曲をチェックインしてください。)

1 曲ずつ消去するとき

1 曲を消去したい“メモリースティック”を入れる

( ここだけで⑥ 30 ページ)

2 1 曲消去モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ERStrk ボタンの順に押す

3 消去したい曲を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき
- ◀ : 前の曲を選ぶとき



選んだ曲番号が表示されます。

4 消去したい曲を決定する

▲ ボタンを押す



確認画面になります。

5 選んだ曲を消去する

◀ ボタン、▲ ボタンの順に押す

「YES」を選び、曲を消去します。

消去をやめるときは

▶ ボタン、▲ ボタンの順に押して、「NO」を選びます。

メモ

音楽データがすべて消去された場合は、ファンクションメニューが解除され、「No audio」が表示されます。

「YES」選択中および消去中は、音量を調節できません。

全曲消去するとき

1 曲を消去したい“メモリースティック”を入れる

(※ ここだけで⑥ 30 ページ)

2 全曲消去モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ERSall ボタンの順に押す

3 全曲消去を決定する

▲ ボタンを押す



確認画面になります。

4 “メモリースティック”内のすべての曲を消去する

◀ ボタン、▲ ボタンの順に押す

「YES」を選び、全曲消去します。

消去をやめるときは

▶ ボタン、▲ ボタンの順に押して、「NO」を選びます。

全曲消去が終了すると、ファンクションメニューが解除され、「No audio」が表示されます。

メモ

「YES」選択中および消去中は、音量を調節できません。

MS
9

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

トラックタイトルやアーティスト名を表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
T.TTL	トラックタイトル
ARTIST	アーティスト名
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

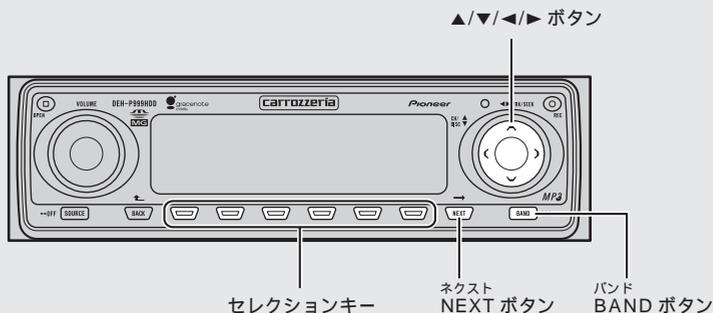
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。アーティスト名などが記憶されていない曲で表示を切り換えると、「No artist name」などが表示されます。



マルチCD
1

聞きたいCDを 直接選ぶ

ダイレクトサーチ

聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。

1 “1” ~ “6” (または“7” ~ “12”) を表示する

NEXT ボタンを押す

“1” ~ “6” (または“7” ~ “12”) が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 聞きたいCDを選ぶ

1 ~ 6 (または7 ~ 12) のボタンを押す



CD番号

メモ

6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7” ~ “12” の表示には切り換わりません。

マルチCD
2

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを
切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



に戻る

マルチCD
3 同じ曲やCDを繰り返し
返し聞く

リピート再生

(つづき)

今聞いている曲を繰り返し聞き聞いたり、1枚のCDを繰り返し聞き聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲(繰り返し聞き聞範囲)は、次の中から選ぶことができます。

表示	リピート再生の内容
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Disc repeat	再生中のCDを繰り返し再生します。
Magazine repeat	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切替モードにする

FUNC ボタンを押す

再生範囲切替モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- Track repeat (トラックリピート)
- Disc repeat (ディスクリピート)
- Magazine repeat (マガジンリピート)
- Track repeat に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → D.LIST → PAUSE → TTLin → COMP → ITS.P → ITS.M → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)、ITS登録モード(ITS.M)を選んでいる場合、自動では解除されません。トラックリストモード(T.LIST)は、「CD TEXT」に対応しているマルチCD(CDX-P670など)で「CD TEXT」を再生しているときのみ表示され、操作することができます。

マルチCD
4いつもと違う曲順で
聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生
範囲を選ぶ (☞ マルチCD 71ページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードに
する

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

マルチCD
5 聞きたい曲やCDを
さがす

トラックスキャン再生/ディスクスキャン再生

今聞いているCDの、曲の始めの部分だけを約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生
範囲を選ぶ (☞ マルチCD 71ページ)聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

トラックスキャン再生/ディスクスキャン再生(つづき)

聞きたいCDをさがすとき
(ディスクスキャン再生)

再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。マルチCD内のすべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードに
する

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(CD)が再生されたら
スキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲(またはCD)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときだけ、トラックリストモードに切り換わります。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。
◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

1 ディスクリストモードにする

FUNC ボタン、D.LIST ボタンの順に押す



いま聞いているCDの番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたいCDを選ぶ

聞きたいCDと同じ番号のボタンを押す
選んだCDが再生されます。

メモ

7～12枚目のディスクを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”～“12”を表示してから、手順2の操作で聞きたいCDを選びます。6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7”～“12”の表示には切り換わりません。

◀/▶ ボタンで聞きたいCDを選び、▲ ボタンで選んだCDを再生することもできます。
マガジンにCDがセットされていないときは、“No disc”が表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“No D.Title”が表示されます。

マルチCD 8 CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。

TI PAUSE CLK CD-UI

マルチCD 9 CDのタイトルを記

CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトル入力しておくと、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

CDにタイトルをつけるとディスクリスト (☞ マルチCD 7 73ページ) で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルで同様にディスクリスト (☞ マルチCD 7 73ページ) をすることができます。

タイトルは10文字まで入力できます。

記憶はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDの記憶は消えません。

タイトルは、ITS (☞ マルチCD 11 77ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで 32ページ)

2 タイトル入力モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、TTLin ボタンの順に押す

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換えると、「入力できません」と表示され、タイトルを入力することはできません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)

3 タイトルを入力する

入力する位置を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 右に移動させるとき
- ◀ : 左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。
10文字まで入力できます。

入力する文字を選ぶ

▲ または ▼ ボタンを押す

- ▲ : 次の文字を選ぶとき
- ▼ : 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

押すボタン	選べる文字
ABCボタン (ABCボタンを 押すごとに切り 換わります。)	アルファベットの小文字 (a ~ z)、空白 (_) アルファベットの大文字 (A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など) 空白 (_)
012ボタン	数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など)、 空白 (_)
アイウボタン (アイウボタンを 押すごとに切り 換わります。)	カタカナ (ア ~ ン)、 音引き (-)、 空白 (_) 拗促音 (ア、ヨ、ツなど)、 濁点、半濁点、 空白 (_)

4 入力が終わったら 10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

5 入力したタイトルを 記憶させる

▶ ボタンを押す



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

6 タイトル入力モードを 解除する

BAND ボタンを押す

メモ

タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) にBANDボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック COMP/DBE機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

COMPについて

COMPとは、Compression (コンプレッション)の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス)の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、COMP ボタンの順に押す



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

ご注意

COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No COMP”が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

COMP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

COMP OFF → COMP 1 (コンプレッション 1)
→ COMP 2 (コンプレッション 2)
→ COMP OFF → DBE 1 → DBE 2
→ COMP OFFに戻る

メモ

COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

記憶させた曲だけ再生する (☞ マルチCD⑩ 78ページ) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチCDに記憶させておきます。

ITS について

ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラック セレクション) の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (☞ マルチCD⑩ 78ページ) 機能です。

曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。

CD1枚につき99曲まで記憶できます。(CDX-P1250、CDX-P650以前に発売されたマルチCDでは記憶できる曲が24曲目までになります。)

ITSは、タイトル (☞ マルチCD⑨ 74ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 記憶させたいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで⑦ 32ページ)

2 ITS 登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

3 記憶させたい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

(☞ ここだけで⑦ 33ページ)

4 記憶させる

MEMO ボタンを押す



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

5 ITS 登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▲ボタンでも曲を登録することができます。

マルチCD 12 記憶させた曲だけ再生する

ITS 再生

ITS 登録 (☞ マルチCD ① 77 ページ) で記憶させた曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (☞ マルチCD ③ 71 ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITS プレイ設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.P ボタンの順に押す

3 ITS 再生を ON にする

ITS.P ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



ITS 再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

メモ

手順1で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ITS empty”が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

マルチCD 13 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す

ITS 消去 (1曲ごと)

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができます。

1 ITS 再生を ON にする (☞ マルチCD ②)

2 消去したい曲を再生する

◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで⑦ 33 ページ)

3 ITS 登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

4 消去する

CLEAR ボタンを押す



次に記憶されている曲

再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。

5 ITS 登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ITS empty”が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

ITS登録モードでは、▼ボタンでも曲を消去することができます。

記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS 消去 (CDごと)

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

1 消去したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで⑦ 32ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。(☞ マルチCD②)

2 ITS登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

3 消去する

CLEAR ボタンを押す



約2秒間表示され、消去したことを知らせます。

4 ITS登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▼ボタンでもCDごとに曲を消去することができます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」(☞ はじめに⑨ 9ページ)に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CDTEXT」再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティストネームを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

タイトル表示/タイトルスクロール(つづき)

チェック 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)の機能です。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティストネーム
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティストネーム
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティストネーム
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティストネーム
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

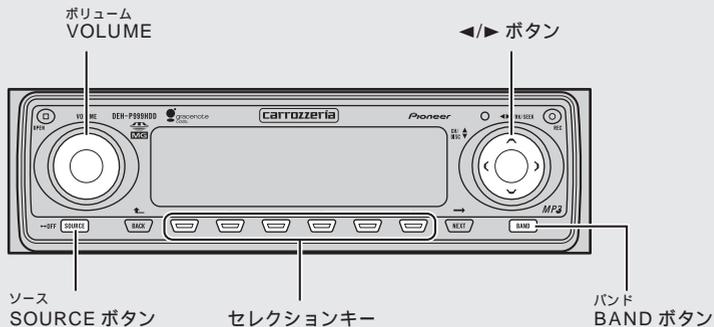
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、▲/▼/◀/▶ ボタンでCDや曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティストネームなどが記憶されていないCDで表示を切り換えると、「No artist name」などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、「No title」が表示されます。



1枚型MDプレーヤーについて

本機での1枚型MDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。1枚型MDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせた1枚型MDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



1枚型MDのふだんの操作

ここだけの操作で、1枚型MDプレーヤーでMDを聞くことができます。

1 ソースを1枚型MDにする

SOURCE ボタンを押す

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

3 音量を調節する

VOLUME を回す

4 1枚型MD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN PAUSE

3 選んだモードを操作する

リピートプレイ設定モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに ON/OFF します。

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに ON/OFF します。

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに ON/OFF します。

ポーズ設定モード (PAUSE)

PAUSE ボタンを押すごとに ON/OFF します。

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で 16 文字、半角で 32 文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

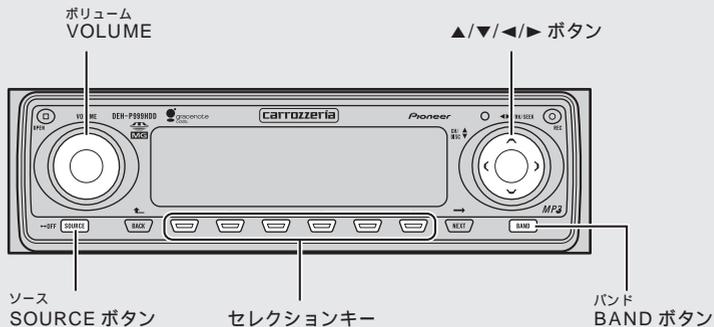
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約 8 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で 12 文字、半角で 24 文字までになります。タイトルが入力されていない MD で表示を切り換えると、“No title” が表示されます。



マルチMD

1

マルチMDの ふだんの操作

ここだけの操作で、マルチMDプレーヤーでMDを聞くことができます。

マルチMDプレーヤーについて

本機でのマルチMDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。マルチMDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたマルチMDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



1

ソースをマルチMDにする

SOURCE ボタンを押す

2

聞きたいMDを選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

3

聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

4

音量を調節する

VOLUME を回す

5

マルチMD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

1 ~ 6 ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
(※ マルチCD ① 70 ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN DLIST

3 選んだモードを操作する

再生範囲切換モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Track repeat → Disc repeat → MultiMD repeat → Track repeatに戻る

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Random OFF → Random 1 → Random 2 → Random OFFに戻る

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Scan OFF → Scan 1 → Scan 2 → Scan OFFに戻る

ディスクリストモード (D.LIST)

ディスクリストモードの操作方法はマルチ CD と同じです。(※ マルチ CD 73 ページ)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で 16 文字、半角で 32 文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

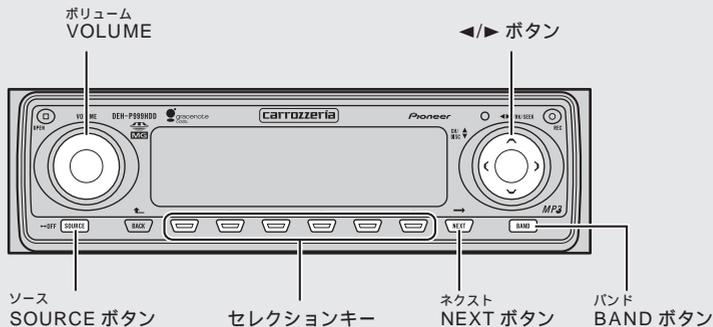
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約 8 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で 12 文字、半角で 24 文字までになります。タイトルが入力されていない MD で表示を切り換えると、“No title” が表示されます。



テレビについて

本機でのテレビの基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

本機では、記憶させたチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶこともできます。(☞ テレビ④)

画面例)



テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができます。

1 ソースをテレビにする

SOURCE ボタンを押す

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

3 チャンネルを選局する

◀または▶ ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

1～12ボタンでお好みのチャンネルの記憶や呼び出しを行うことができます。(☞ ラジオ①② 44、45ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

BSSM chLIST MPX

3 選んだモードを操作する

BSSM 設定モード (BSSM)

BSSM ボタンを押すごとに ON/OFF します。BSSM が終了すると、自動的にチャンネルリストモードに切り換わります。

チャンネルリストモード (chList)

chList ボタンを押すとチャンネルリストモード(テレビ)に切り換わります。(チャンネルリスト機能に対応していないテレビでは、“chList”が表示されず、操作することができません。)

マルチプレックス選択モード (MPX)

MPX ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Main に戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

BSSM とは、Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)の略です。

チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

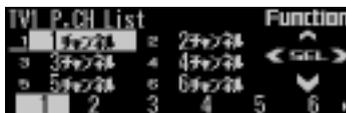
チャンネルリスト

1～12のボタンに記憶させたチャンネルの一覧(チャンネルリスト)から見たいチャンネルを選ぶことができます。

チェック チャンネルリスト機能に対応しているテレビで操作できます。

1 チャンネルリストモードにする

FUNC ボタン、chLIST ボタンの順に押す



いま受信中のチャンネルの番号の下に、“_”が表示されます。

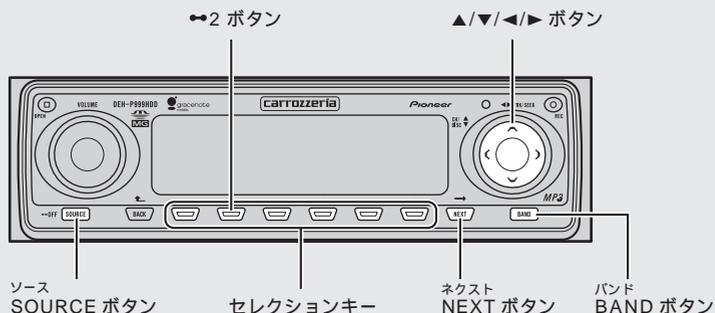
2 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルと同じ番号のボタンを押す

選んだチャンネルを受信します。

メモ

7～12ボタンに記憶されているチャンネルを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”～“12”を表示してから、手順2の操作で見たいチャンネルを選びます。



音の調節

1

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- 音場の中心で聞く (POSITION)
- 車種に合ったタイムアライメントを選ぶ (T.AL1)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 音場の中心で聞く (POSITION)
- 車種に合ったタイムアライメントを選ぶ (T.AL1)
- タイムアライメントを調節する (T.AL2)
- サブウーファーを使う (SW1, SW2)
- 低い音をスピーカーから出力させないようにする (HPF F, HPF R)
- 前後左右の音量バランスを調節する (F/B)
- オートイコライジングを行う (A.EQ)
- イコライザーカーブを選ぶ (EQ)
- イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)
- イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

便利な機能

「手軽に心地よい音場を演出する」や「きめ細かくお好みに合わせて調節する」を行ったあと、お好みに合わせてお使いいただくと効果があります。

- 小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)
- イメージに合った演奏会場を再現する (SFC)
- 騒音に合わせて音量を変える (ASL)
- 各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)
- 音の歪みを補正する (D.ATT)

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中からお好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM について

“CUSTOM1”と“CUSTOM2”は、お好みに合わせて調節することができます。(音の調節 91 ページ)

FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザーモードにする

EQ ボタンを押す

2 イコライザーカーブを選ぶ

選びたいイコライザーカーブのボタンを押す

ボタン	イコライザーカーブ
S.BASS	SUPER BASS
PWRFL	POWERFUL
NATRAL	NATURAL
VOCAL	VOCAL
FLAT	FLAT
CSTM1	CUSTOM1
CSTM2	CUSTOM2



選んだイコライザーカーブが表示されます。

メモ

“CSTM2”を選ぶ場合、NEXT ボタンを押して、“CSTM2”を表示してから、手順2の操作で選びます。

◀または▶ ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。

イコライザーモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL

POS1 T.AL1 T.AL2 SW1 SW2 HPF F

HPF R SLA A.EQ D.ATT

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

AUDIO ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

F/B → LOUD → SFC → EQ1 → EQ2 → ASL → POS1 → T.AL1 → T.AL2 → SW1 → SW2 → HPF F → HPF R → SLA → A.EQ → D.ATT → F/B に戻る

メモ

オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー13バンド調節モード(EQ2)、タイムアライメント調節モード(T.AL2)を選んでいる場合は、自動では解除されません。

“T.AL2”は、リスニングポジションセクターモードで“FL”または“FR”を選んでいるときだけ表示されます。

“SW1”は、RCA外部出力の設定(☞ 便利な機能 112 ページ)を“Subwoofer”にしているときだけ表示されます。

“SW2”は、サブウーファーモードをONにしているときだけ表示されます。

ラジオのFMを聞いているときは、“SLA”は表示されません。

“A.EQ”は、オートイコライザーが設定されたあとに表示されます。

前後左右の音量 バランスを調節する

フェーダー / バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節 モードにする

AUDIO ボタンを押す

音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、F/B ボタンを押す。

2 音量バランスを調節する

前後を調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 前を強めるとき

▼ : 後ろを強めるとき



前後のバランスはF25 ~ R25の範囲で調節できます。

左右を調節する

◀ または ▶ ボタンを押す

▶ : 右を強めるとき

◀ : 左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。

小音量時の音に メリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモードにする

AUDIO ボタン、LOUD ボタンの順に押す

2 ラウドネスを ON にする

LOUD ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



イメージに合った演奏会場を再現する

SFC / OCT / BBE

SFCで実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、Octaverではレベルの切り換え、BBEではレベルの調節をすることができます。

SFC について

SFCとはSound Field Control (サウンドフィールドコントロール)の略です。SFCは、車室内にリアルな音場を再現することができます。STUDIOやDOMEなど4つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

OCT (オクターバー) について

サブウーファー帯域の超低音域を補うことで、低音を強調した重量感のある音で聞くことができます。OCTAVER2のほうがOCTAVER1より低音を強調する効果があります。

BBE について

音楽再生時に発生する高調波成分の遅延、振幅の狂いを位相補正と高域ブーストを組み合わせることで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFC モードにする

AUDIO ボタン、SFC ボタンの順に押す

2 音場プログラムを選ぶ

選びたい音場プログラムのボタンを押す
同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	音場プログラム
STUDIO	STUDIO
CLUB	CLUB
HALL	CONCERT HALL
DOME	DOME
OCT	OCTAVER 1、2
BBE	BBE



選んだ音場プログラムが表示されます。

OCT を選ぶ場合

1 OCT を選ぶ

AUDIO ボタン、SFC ボタン、OCT ボタンの順に押す

2 OCTAVER のレベルを選ぶ

▲または▼ ボタンを押す

▲ : OCTAVER1 を選ぶとき

▼ : OCTAVER2 を選ぶとき



BBE を選ぶ場合

1 BBE を選ぶ

AUDIO ボタン、SFC ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBE のレベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

イコライザーカーブをだまかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

(音の調節② 87ページ)

2 イコライザー調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ1 ボタンの順に押す

3 イコライザーカーブを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲：強めるとき

▼：弱めるとき



- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

メモ

◀または▶ ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます

“FLAT” や全ての周波数が“0”に設定されているイコライザーカーブでは、ニュアンスコントロールすることはできません。

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

CUSTOM1 について

“CUSTOM1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CD(MP3含む)とマルチCD、1枚型MDとマルチMDは、同じ設定になります。) “CUSTOM2”以外のカーブを選んでいときに調節すると、“CUSTOM1”に記憶されます。

イコライザー調節(つづき)

CUSTOM2 について

“CUSTOM2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“CUSTOM2”を選んでいときに調節すると、調節したカーブが新しい“CUSTOM2”として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

(音の調節② 87ページ)

2 イコライザー 13 バンド調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ2 ボタンの順に押す

3 各周波数ごとのレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



選んだ周波数が表示されます。

選べる周波数 (Hz)

50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲：強めるとき

▼：弱めるとき



- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 13 バンド調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

音の調節

9

騒音に合わせて
音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるよう
にすることができます。

ASL について

ASLとは、Automatic Sound Levelizer
(オートマッチック サウンド レベライザー)の略
です。

ASLは、走行速度や道路状況によって変化
する車内の騒音を検出して、騒音が大きくな
ると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASL モードにする

AUDIO ボタン、ASL ボタンの順に押す

2 ASL の感度を選ぶ

ASL ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



ASL OFF → Low → Mid-Low → Mid
→ Mid-High → High → ASL OFF に戻る

メモ

音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音
量の上げ幅は小さくなります。

この機能が働いて音量が上がりすぎたとき、音が
歪むことがあります。そのときはVOLUMEを左に
回して音量を下げてください。

音の調節

10

音場の中心で聞く

リスニングポジションセクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選
ぶことができます。

1 リスニングポジション
セクターモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、
POSI ボタンの順に押す

2 乗車位置を選ぶ

選みたい乗車位置のボタンを押す

同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	乗車位置
FL	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
FR	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
FRONT	同乗者が助手席にいるとき
ALL	同乗者が後部座席にいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

メモ

▲、▼、◀、または▶ ボタンで乗車位置を選ぶこ
とができます。

ボタン	乗車位置
◀	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
▶	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
▲	同乗者が助手席にいるとき
▼	同乗者が後部座席にいるとき

車種に合ったタイムアライメントを選ぶ

車種別タイムアライメント

あらかじめ車種別に用意されたタイムアライメントの中からお車に合ったものを選ぶことで、自動的に最適なタイムアライメントを設定することができます。

車種別タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

車種別タイムアライメントは、車種に合ったタイムアライメントをあらかじめ記憶していますので、車種を選ぶことで自動的に最適なタイムアライメントを設定することができます。

1 車種別タイムアライメント設定モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL1 ボタンの順に押す

2 車種を選ぶ

選びたい車種のボタンを押す

ボタン	車種
CMPCT	Compact (コンパクトカー)
SEDAN	Sedan (セダン)
WAGON	Wagon (ワゴン)
M. VAN	Mini van (ミニバン)
CUSTM	Custom



選んだ車種が表示されます。

メモ

“Custom” には、お好みに合わせて調節したタイムアライメントが記憶されます。

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

車種別タイムアライメントとリスニングポジションを設定することで、タイムアライメントは自動的に設定されますが、このモードでは、さらに厳密にタイムアライメントを調節することができます。

タイムアライメント調節について

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント調節モードにする

確認

リスニングポジションセレクターモードで“FL”が“FR”を選んでいないと、タイムアライメント調節モードを選ぶことはできません。

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL2 ボタンの順に押す

2 距離の単位を選ぶ

使いたい単位のボタンを押す

ボタン	車種
cm	cm (センチメートル)
inch	inch (インチ)

3 各スピーカーの距離を調節する

調節するスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



Front Left、Front Right、Rear Right、Rear Left、Sub. W (Subwoofer)の中から選ぶことができます。

距離を調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 距離を遠くするとき

▼ : 距離を近くするとき



0.0 cm から 400.0 cm の範囲で調節できます。(インチを選んでいる場合は、0 inch ~ 160 inch の範囲で調節できます。)

4 タイムアライメント調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

リスニングポジションセレクターモード (音の調節 92 ページ) で“FL”が“FR”を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

RCA 外部出力の設定 (便利な機能 112 ページ) を“REAR”にしているときは、“Sub. W”には切り換わりません。

サブウーファーモードをOFFにしているときは、“Sub. W”には、切り換わりません。

サブウーファーを使う

サブウーファー

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。(この機能は、初期設定でONになっています。)

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どろしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125(単位: Hz)から選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 サブウーファーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、SW1 ボタンの順に押す

2 サブウーファーをONにする

SW1 ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 位相を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : NORMAL (正相)
- ◀ : REVERSE (逆相)



4 サブウーファー調節モードにする

SW2 ボタンを押す

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125(Hz)の中から選ぶことができます。

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



レベルは -24 ~ +6 の範囲で調節できます。

メモ

RCA外部出力の設定(☞ 便利な機能⑦ 112ページ)を“REAR”にしているときは、サブウーファーモード(SW1)には切り換わりません。サブウーファーをOFFにしたときは、サブウーファー調節モード(SW2)には、切り換わりません。

低い音を出力しないようにする

ハイパスフィルター (HPF)

ハイパスフィルターをONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125 (単位: Hz) から選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

フロントスピーカーの調整をするとき

1 フロントハイパスフィルター調整モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、HPF F ボタンの順に押す

2 フロントハイパスフィルターをONにする

HPF F ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 フロントハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

リアスピーカーの調整をするとき

1 リアハイパスフィルター調整モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを2回、HPF R ボタンの順に押す

2 リアハイパスフィルターをONにする

HPF R ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 リアハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

各ソースの音量の 違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を 確かめる

SOURCE ボタンを押す
(☞ ここだけで② 24 ページ)

2 調節したいソースに 切り換える

SOURCE ボタンを押す
(☞ ここだけで① 20 ページ)

3 SLA モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
SLA ボタンの順に押す

4 レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

- ▲ : レベルを大きくするとき
- ▼ : レベルを小さくするとき



- 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

SLAとはSource Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)の略です。
FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。
内蔵CD (MP3含む) とマルチCD、1枚型MDとマルチMD、External 1とExternal 2、およびAMと交通情報 (☞ 便利な機能③ 103 ページ) は同じ設定になります。

オートイコライザー をON/OFFする

オートイコライザー

オートイコライジング (☞ 音の調節⑩ 100 ページ) で作成したオートイコライザーカーブのON/OFFをすることができます。

1 オートイコライザー モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
A.EQ ボタンの順に押す

2 オートイコライザーを ON/OFFする

A.EQ ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

オートイコライジング (☞ 音の調節⑩ 100 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードには切り換わりません。

音の調節 17 音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節 (音の調節 91 ページ) による音の歪みをなくすことができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの調節 (音の調節 91 ページ) でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの調節で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を LOW に切り換えてください。

1 デジタルアッテネーター設定モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、D. ATT ボタンの順に押す

2 設定を選ぶ

選びたい設定のボタンを押す

ボタン	設定
LOW	LOW
HIGH	HIGH



音の調節 18 オートイコライジン

オートイコライジングを行う前に必ずお読みください。



警告

走行中にオートイコライジングを行わない



禁止

自動車が走行中にオートイコライジングを行わないでください。オートイコライジング機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態でオートイコライジングを行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。オートイコライジングを行う前に、よく確認してください。

スピーカーの接続を誤っている場合

(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)

スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

オートイコライジング機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

本機のオートイコライジング機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、オートイコライジングにより乱れの少ない滑らかな特性になった上でイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。)

オートイコライジングを行うと、各モードの内容が次の様に変更されます。

- * 前後左右の音量バランス調節 (フェーダー/バランス) の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
- * イコライザーカーブは、フラット (FLAT) になります。
- * リスニングポジションセレクターは、Front Right に設定されます。(ただし、Front Left に設定していたときだけは、Front Left のままになります。)
- * RCA 外部出力設定 (☞ **便利な機能①** 112 ページ) を “Subwoofer” にし、サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。(サブウーファー出力を OFF にしていても、自動的に ON になり調節されます。)

オートイコライジングを行う前にお読みください

オートイコライジングは、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからオートイコライジングを行ってください。計測音以外の音 (車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など) によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

オートイコライジングは、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、オートイコライジングが実行できなかつたり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

フロントスピーカーとリアスピーカーのどちらも接続されていない場合は、オートイコライジングが実行できません。(どちらかが接続されていれば、オートイコライジングが実行できます。)

入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、オートイコライジングが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

オートイコライジングの調節内容について

一度オートイコライジングを行ったあとに、RCA 外部出力設定 (☞ **便利な機能①** 112 ページ) を切り換えると、オートイコライジングの調節内容が消去されます。再度、オートイコライジング調節を行ってください。

一度オートイコライジングを行ったあとに、再度オートイコライジングを行うと、前のオートイコライジングの調節内容は消去されます。

オートイコライジングを行う

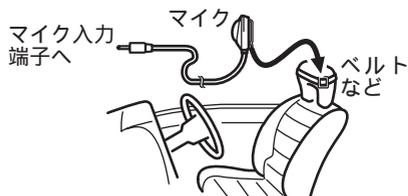
車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

静かな所に車を停車させる
ドア、窓、サンルーフなどを閉める
車のエンジンを停止させる

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属のマイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってオートイコライジングが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセレクターモードにして、乗車位置をマイクをセットした座席に設定する。(※ 音の調節⑩ 92 ページ)

メモ

乗車位置をFRONT SEAT RIGHTまたはFRONT SEAT LEFT以外に設定したときは、オートイコライジングを始めると、強制的にFRONT SEAT RIGHTに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押す

7 オートイコライジングモードにする

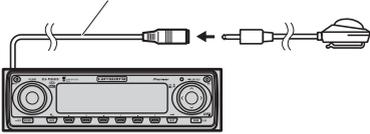
→ 2 ボタンを2秒以上押す



8 マイクを本機に接続する

マイク入力端子のキャップを外し、付属のマイクをマイク入力端子に接続する

マイク端子は、本機背面より出ています。



9 オートイコライジングを始める

A. EQ ボタンを押す

もう一度ボタンを押すと途中解除します。



10 車外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、

10 秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、オートイコライジング（音響特性の測定および補正）が始まります。

11 オートイコライジングが自動的に終了する



オートイコライジング操作が終わったらセットしたマイクを取り外し、BAND ボタンを押して電源を切ってください。

ご注意

オートイコライジングが終了したら、マイクを外し、マイク入力端子にキャップを取り付けたあと、マイクとマイク入力端子を保管場所に戻してください。そのままにしておくと、コードがアクセルペダルに絡むなど運転の妨げになる場合があります。大変危険です。

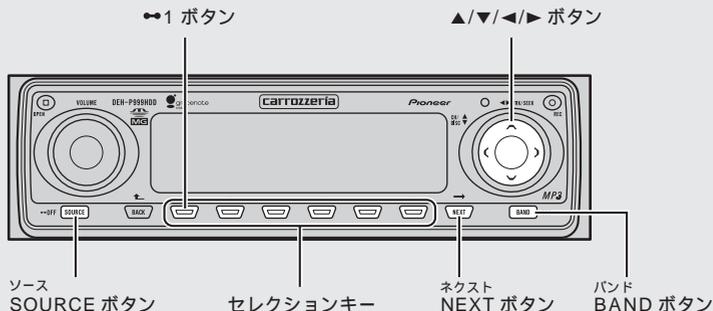
メモ

オートイコライジングを途中でやめなくなったときは、BAND ボタンを押してください。強制的に解除して、電源OFFになります。

マイクをセットする位置により、オートイコライジングの調節内容が変わります。

お好みにより、助手席にセットすることもできます。

マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



便利な機能

1

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1

瞬時に音量を小さくする

ATT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



アッテネーターがONのときに反転表示します。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

便利な機能

2

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンのDFボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。

内蔵CD (MP3)、ミュージックサーバー、“メモリースティック”、マルチCD、1枚型MDのとき

1

再生を一時停止する

リモコンのDFボタンを押す

(☞ はじめに⑥ 11ページ)

ボタンを押すごとに機能がON/OFFします。

(☞ CD⑥ 36ページ)

(☞ MP3⑦ 42ページ)

(☞ MSV⑪ 58ページ)

(☞ MS⑥ 66ページ)

(☞ マルチCD⑥ 74ページ)

(☞ 1枚型MDの取扱説明書)

ラジオのとき

1

BSM を始める

リモコンのDFボタンを2秒以上押す

(☞ はじめに⑥ 11ページ)

BSMが始まります。(☞ ラジオ④ 46ページ)

メモ

BSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、BSMを途中解除することもできます。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1,620 kHzまたは1,629 kHzの交通情報を、簡単に受信することができます。

ダイレクトファンクション (つづき)

マルチ MD のとき

1 リポート再生を切り換える

リモコンの DF ボタンを押す

(☞ はじめに 11 ページ)

ボタンを押すごとにリポート再生が切り換わります。(☞ マルチ MD の取扱説明書)

1 “TI” を表示する

NEXT ボタンを押す

“TI” が表示されるまで、NEXT ボタンを押し続けて切り換える。

テレビのとき

1 BSSM を始める

リモコンの DF ボタンを 2 秒以上押す

(☞ はじめに 11 ページ)

BSSM が始まります。(☞ テレビの取扱説明書)

2 交通情報を受信する

TI ボタンを押す

交通情報を受信します。

メモ

BSSM 中にリモコンの DF ボタンを押すことで、BSSM を途中解除することもできます。

3 放送に合わせて周波数を切り換える

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 1,629 kHz にするとき

◀ : 1,620 kHz にするとき



受信周波数

4 交通情報の受信をやめる

TI ボタンを押す

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

この機能は、どのソースからでも操作できます。交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。

便利な機能

4

カスタムメニューの切り換えかた

表示画面の選択やディマーなどの設定をするときはカスタムメニューを切り換えて操作します。

1 “C. MENU” を表示する

NEXT ボタンを押す

“C. MENU” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

TI 24:00 CLK 100%

2 カスタムメニューにする

C. MENU ボタンを押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

FM 1 FM 2 FM 3 FM 4 P.TRN

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 カスタムメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

カスタムメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“PTRN” は、表示画面の“FORM 2”専用の機能です。“FORM 1”を選択しているときは表示されません。(E3 便利な機能⑥)

便利な機能

5

表示画面を選ぶ

表示画面選択

本機の基本画面には、FORM 1 と FORM 2 の2つの表示方法があり、お好みに合わせて選ぶことができます。

1 表示画面選択モードにする

C. MENU ボタン、D. FORM ボタンの順に押す

2 表示を選ぶ

お好みの表示のボタンを押す

ボタン	表示
FORM1	FORM 1
FORM2	FORM 2

便利な機能

6

ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1 輝度調整モードにする

C. MENU ボタン、BRGHT ボタンの順に押す

2 明るさを調節する

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 明るくしたいとき

◀ : 暗くしたいとき



0 ~ 31 の範囲で調節できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマーの設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにすると、ディスプレイが暗くなります。

1 ディマーモードにする

C. MENU ボタン、DMMER ボタンの順に押す

2 ディマーの設定をONにする

DMMER ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、ブライモード (E3) 便利な機能 (E) でディスプレイの明るさを“0”に調節しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

背景のパターンを選ぶ

壁紙選択

表示画面に“FORM 2”を選んでいる場合、背景のパターンを選ぶことができます。

1 壁紙選択モードにする

C. MENU ボタン、PTRN ボタンの順に押す

2 壁紙を選ぶ

A、B、C ボタンの中から好みの壁紙のボタンを押す



エンタテインメントを表示させる

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメントメニューの切り換えかた

1 エンタテインメントメニューにする

ENT ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

MOVIE S/A ALL BG OFF

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 エンタテインメントメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

エンタテインメントメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。“BG”は、表示画面の“FORM 1”専用の機能です。“FORM 2”を選択しているときは表示されません。(☞ 便利な機能⑤ 104 ページ)

ムービースクリーンを表示する

1 ムービースクリーン選択モードにする

ENT ボタン、MOVIE ボタンの順に押す

2 ムービースクリーンを選ぶ

お好みのムービーのボタンを押す

押したボタンのムービースクリーンが表示されます。

ボタン	表示
MOVIE1	トライアンプ
MOVIE2	エコーズ
MOVIE3	ソニックライン
MOVIE4	オメガロイド
ALL	MOVIE1 ~ 4を順番に表示

レベルインジケータを表示する

1 レベルインジケータ選択モードにする

ENT ボタン、S/A ボタンの順に押す

2 レベルインジケータを選ぶ

S/A 1 ~ S/A 4の中から、お好みのレベルインジケータのボタンを押す

押したボタンのレベルインジケータが表示されます。

ASL レベルインジケータを表示する

1 ASL レベルインジケータを表示する

ENT ボタン、ASL ボタンの順に押す

メモ

ASL については (設定) 音の調節 92 ページ)

バックグラウンドビジュアルを表示する

1 バックグラウンドビジュアル
選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGV ボタンの順に押す

2 バックグラウンドビジュアル
を選ぶ

BGV1 ~ BGV5 の中から、お好みのバックグラウンドビジュアルのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドビジュアルが表示されます。

バックグラウンドスタイルピクチャーを表示する

1 バックグラウンドスタイル
ピクチャー選択モードにする

ENT ボタン、BG ボタン、BGP ボタンの順に押す

2 “BGP1” ~ “BGP6” と “BGP7”
~ “BGP12” を切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに “BGP1” ~ “BGP6” と “BGP7” ~ “BGP12” が切り換わります。

BGP1 BGP2 BGP3 BGP4 BGP5 BGP6

3 バックグラウンドスタイル
ピクチャーを選ぶ

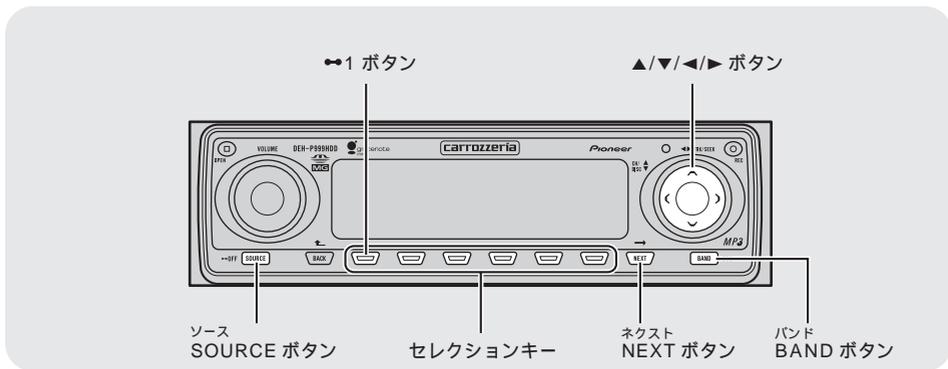
BGP1 ~ BGP12 の中から、お好みのバックグラウンドスタイルピクチャーのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドスタイルピクチャーが表示されます。

エンタテインメント表示を解除する

1 エンタテインメント表示を
解除する

ENT ボタン、OFF ボタンの順に押す
現在表示しているエンタテインメント表示を OFF にします。



便利な機能
10

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やRCA外部出力の設定をするときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源をOFFにする

SOURCE ボタンを1秒以上押す
(ここだけで① 20ページ)

2 初期設定モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押す

3 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV F.DEMO AUX MUTE.S UTLY

PREOUT

REV F.DEMO AUX MUTE.S UTLY に戻る

4 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

5 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

リモコンの場合

電源がOFFのときに、FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV → F.DEMO → AUX → MUTE.S → UTLY → PREOUT → REV に戻る

リバースモードをON/OFFする

リバースモードのON/OFFをすることができます。

1 画面反転機能設定モードにする

電源がOFFのときに、**⇄** 1 ボタンを2秒以上押す

2 画面反転機能設定をONにする

REV ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

リバースモードは、本機がOFFのときに、5ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

フィーチャーデモをON/OFFする

フィーチャーデモのON/OFFをすることができます。

1 デモンストレーション設定モードにする

電源がOFFのときに、**⇄** 1 ボタンを2秒以上押してから、F.DEMO ボタンを押す

2 デモンストレーション設定をONにする

F.DEMO ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

フィーチャーデモは、本機がOFFのときに、6ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

外部機器の音声を 聞く

便利な機能
13

AUX (外部機器) の設定

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。

詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器) モードにする

電源がOFFのときに、**↔ 1** ボタンを2秒以上押してから、AUX ボタンを押す

2 AUX (外部機器) の設定をONにする

AUX ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

4 ソースをAUXにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ

(☞ ここだけで① 20 ページ)



ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。

外部機器の名称を 入力する

便利な機能
14

接続した外部機器の名称を入力することができます。

1 ソースをAUXにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ

(☞ ここだけで① 20 ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

FUNC ボタン、TTLin ボタンの順に押す



3 外部機器の名称を入力し、記憶させる

(☞ マルチCD⑨ 74 ページ)

CDタイトル入力の手順3～6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。

例) “DAT” を入力した場合



“AUX” の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

メモ

TTLin ボタンを押さなくても、文字を入力することはできますが、アルファベットの小文字やカナ文字などを入力することはできません。

ミュート / アッテネートを切り換える

ミュート / アッテネート設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするか、アッテネートするかを選ぶことができます。

ミュートアッテネート機能について

ミュート機能のある製品（パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-D9100」など）と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているあいだだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

TEL mute : 音量 “0”

10 dB ATT : もとの音量の 1/3

20 dB ATT : もとの音量の 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュート設定モードにする

電源が OFF のときに、**1** ボタンを 2 秒以上押ししてから、MUTE.S ボタンを押す

2 設定を選ぶ

MUTE.S ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



TEL mute → 10 dB ATT → 20 dB ATT
→ TEL mute に戻る

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源が OFF になります。

“メモリースティック”を初期化する

フォーマット

挿入した“メモリースティック”を本機が読みとれない場合、本機で“メモリースティック”を初期化する必要があります。初期化（フォーマット）すると、“メモリースティック”に記憶されたデータはすべて消去されます。

本機で初期化（フォーマット）した場合、“メモリースティック”にチェックアウトしていた曲のチェックアウト可能な残り回数は元に戻りません。（チェックアウト回数を元に戻すには本機で初期化（フォーマット）する前に、本機またはお使いのパソコンに曲をチェックインしてください。）

ご注意

フォーマットすると、本機で記録した以外のデータも消去されます。フォーマットする前に、必ず内容を確認してください。

メモ

市販の“メモリースティック”は、お買い上げ時には、すでにFATフォーマットされていますので、あらためてフォーマットする必要はありません。

1 フォーマットモードにする

電源が OFF のときに、**1** ボタンを 2 秒以上押ししてから、UTILITY ボタンを押す

2 初期化（フォーマット）したい“メモリースティック”を入れる

(☞ ここだけで 30 ページ)

次ページへつづく

フォーマット (つづき)

3 初期化 (フォーマット) する

▲ ボタンを押す



確認画面が表示されます。

4 初期化 (フォーマット) するか再度確認し、実行する

◀ ボタン、▲ ボタンの順に押す

「Y」を選び、初期化します。

初期化をやめるときは

▶ ボタン、▲ ボタンの順に押して、「N」を選びます。

初期化が終了すると、「Finished」が表示されます。

5 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

“メモリースティック”が入っていないときに、初期化を行うと、“Insert Memory Stick”が表示されます。この場合、初期化したい“メモリースティック”を入れると、続けて操作することができます。

便利な機能

17

RCA 外部出力から出力される信号を選ぶ

本機のリア出力またはサブウーファー出力に外部アンプを接続した場合、外部アンプに接続するスピーカーに合わせてこの設定を切り換えます。

1 RCA 外部出力モードにする

電源がOFFのときに、⇄ 1 ボタンを2秒以上押してから、NEXT ボタン、PREOUT ボタンの順に押す

2 接続するスピーカーを選ぶ

SW ボタンまたはREAR ボタンを押す

ボタン	スピーカー
SW	サブウーファー
REAR	リアスピーカー



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

リアスピーカーに設定したときは、サブウーファーの調節 (音の調節 95 ページ) はできません。

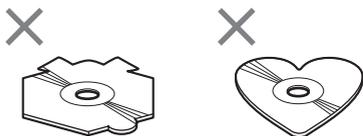
使用できるCDについて

下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



ひび、キズ、そのあるCDは使用しないでください。

特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）がされていないCD-R/CD-RWディスクは再生できません。

音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）

直射日光や高温等、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。

CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）

本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。（音楽データ（CD-DA）再生時）

CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

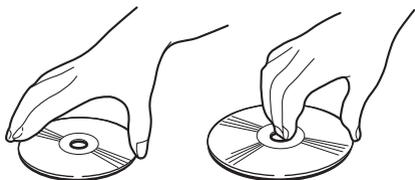
CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

DDCD（Double Density CD）形式で録音されたCD-R/CD-RWディスクは再生できません。

SACD（Super Audio CD）は、ハイブリッドディスクのCD層のみ再生することができます。

取り扱い上のご注意

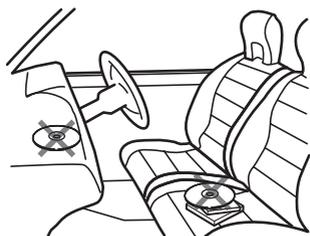
CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



CDにキズを付けないでください。
CDにシールなどを貼り付けしないでください。

保管上のご注意

直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

当社では、CD用のクリーニングキット「JV-D11」を別売しています。カーステレオ販売店でお買い求めください。

CD再生の環境について

走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

メモ

製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

MP3 とは？

MPEG Audio Layer 3 の略称で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。(☞ その他⑦ 129 ページ)

再生できる MP3 ファイルについて

本機は MP3 ファイルの CD-ROM、または CD-R/CD-RW ディスクを再生することができます。ディスクは、ISO9660 のレベル1、レベル2 (☞ その他⑦ 129 ページ) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。また、拡張フォーマット (☞ その他⑦ 129 ページ) には次の条件で対応しています。

Joliet : 8.3 形式のみ対応。

Romeo : フォルダー名は半角 64 文字、ファイル名は半角 63 文字 (拡張子含む) まで対応。

ご注意

MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けないでください。

マルチセッション (☞ その他⑦ 128 ページ) 対応で記録したディスクは、最初のセッションのみ再生することができます。

ID3-Tag (☞ その他⑦ 128 ページ) の Ver1.0 および Ver1.1 の album (Disc Title として表示)、track (TrackTitle として表示)、artist (Track Artist として表示) の表示に対応しています。

32/44.1/48 kHz の MP3 ファイルを再生している場合のみエンファシスに対応しております。(なお、再生可能なサンプリング周波数は 22.05/24/32/44.1/48 kHz です。)

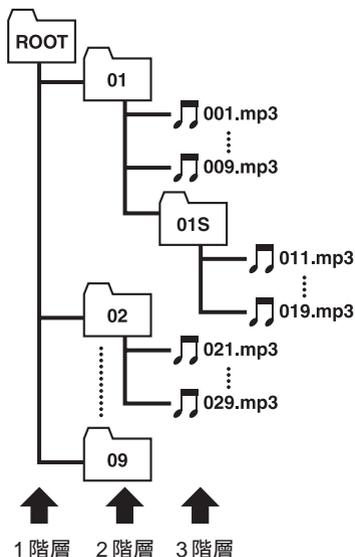
パケットライト (☞ その他⑦ 128 ページ) には対応していません。

m3u (☞ その他⑦ 129 ページ) のプレイリストには対応していません。

MP3i (MP3 interactive)、mp3 PRO フォーマットには対応していません。

フォルダーと MP3 ファイルについて

MP3 ファイルを収録した CD-ROM のイメージは下図のようになります。また、サブフォルダーとは、現在選んでいるフォルダー内にあるフォルダーのことです。(下図の場合、「01S」フォルダーが「01」フォルダーのサブフォルダーになります。)



メモ

Mixed Mode CD のデータトラックは、再生経過時間を表示しますが、音声は出力されません。音楽トラックのみ再生します。

MP3 ファイルを含まないフォルダーは、認識しません。

8階層までの MP3 ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を 2 つ以下にすることをおすすめします。

使用できる“メモリスティック”について

下記マークの付いている“メモリスティック”（“マジックゲートメモリスティック（MGメモリスティック）”）をご使用ください。（※ その他⑦ 128ページ）



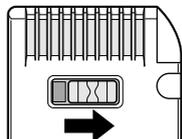
下記マークの“メモリスティック”は使用できません。



本機が対応している“MGメモリスティック”の容量は、128MBまでです。

取り扱い上のご注意

誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると、記録や編集、消去をすることができなくなります。



端子部には、手や金属が触れないようにしてください。



データが破壊される恐れがありますので、書き込み中（アクセスランプが点灯中）に“メモリスティック”を抜かないでください。

データが破壊される恐れがありますので、静電気や電氣的ノイズを受ける恐れのある場所に、“メモリスティック”を放置しないでください。

“メモリスティック”のフォーマット（初期化）は、本機または“MGメモリスティック”専用機器で行ってください。Windows エクスプローラーでフォーマットを行った場合、本機では再生できません。

保管上のご注意

直射日光の当たるところや高温になるところには、“メモリスティック”を保管しないでください。

テレビやスピーカー、磁石など磁気を帯びたものの近くに保管しないでください。

必ずケースに入れて保管してください。

ラベルについて

“メモリスティック”に付属のラベルは、必ず指定の位置に貼ってください。指定以外の位置に貼ったり、2枚重ねて貼ったりすると、“メモリスティック”が取り出せなくなることがあります。

ラベルがめくれたり、浮いたりした“メモリスティック”は使用しないでください。ラベルが引っかけたり、“メモリスティック”が取り出せなくなります。このような“メモリスティック”は新しいラベルに貼り換えてからお使いください。

お手入れについて

“メモリスティック”の表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。

“メモリスティック”にベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と

思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(☞ はじめに⑤ 13 ページ)

それでも

直らないときは

保証書とアフターサービス(☞ その他⑥ 127 ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(☞ 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと同交換してください。(☞ 取付説明書)
	電源ボックス用コードが正しく接続されていない。	電源ボックス用コードが正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。(☞ ここだけで② 23 ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。(☞ 便利な機能① 102 ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節④ 89 ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節④ 89 ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(☞ 音の調節④ 89 ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。(☞ 便利な機能⑪ 109 ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジー、ジー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。(☞ ここだけで③ 25 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。(☞ ここだけで③ 25 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。(☞ ここだけで③ 25 ページ)

CD/MP3 ファイル

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ その他 ① 115 ページ)
	CDにくもりや水滴がついている。	CDのくもりや水滴をふき取ってください。 (☞ その他 ① 115 ページ)
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。(☞ ここだけで ② 22 ページ)
CD-RやCD-RW、CD-ROMを再生できない。	ディスクがファイナライズされていない。	ディスクをファイナライズしてください。
MP3ファイルを再生できない。	MP3ファイルに「.mp3」の拡張子が付いていない。	MP3ファイルに拡張子「.mp3」を付けたディスクに交換してください。
	ISO9660のレベル1、レベル2に準拠して記録されていない。	ISO9660のレベル1、レベル2に準拠して記録したディスクに交換してください。
MP3ファイル再生中に大きな雑音が出る。 MP3ファイル再生中に音が出なくなる。	MP3形式でないファイルに「.mp3」の拡張子を付けている。	ディスクを交換してください。(MP3形式でないファイルに「.mp3」拡張子を付けたCD-ROMを再生しないでください。)
聞きたいMP3ファイルが見つからない。	マルチセッションで記録したディスクを再生している。	本機は、マルチセッションに対応しておりません。(マルチセッションで記録した場合、最初のセッションのみ再生します。)
	MP3ファイルに「.mp3」の拡張子が付いていない。	MP3ファイルに拡張子「.mp3」を付けたディスクに交換してください。
フォルダー名やファイル名が正しく表示されない。	ISO9660のレベル1、レベル2に準拠して記録されていない。	ISO9660のレベル1、レベル2に準拠して記録したディスクに交換してください。
MP3ファイル再生が、記録した順と異なる。	MP3ファイルは、記録したときの順番通りに再生されない場合があります。	ライティングソフトによっては、フォルダー名、ファイル名のはじめに数字(01、02など)を付けることにより、再生順を指定できる場合があります。

ミュージックサーバー

症状	原因	処置
音が出ない。	ミュージックサーバーに何も録音されていない。	ミュージックサーバーは、録音してからお使いください。(☞ ここだけで ④ 26 ページ)
	再生期限付きの音楽データを有効期限外に再生しようとしている。	別の音楽データに切り換えてください。
	時計の設定が合っていない。	本機の時計を正しく合わせてください。(時計の設定が、再生期限付き音楽データの有効期限外になっていると、再生できなくなります。 (☞ はじめに ⑥ 14 ページ)
音が歪んで聞こえる	録音時のビットレートが低い。	高いビットレートで録音してください。

“メモリースティック”

症状	原因	処置
音が出ない。	再生期限付きの音楽データを有効期限外に再生しようとしている。	別の音楽データに切り換えてください。
	時計の設定が合っていない。	本機の時計を正しく合わせてください。(時計の設定が、再生期限付き音楽データの有効期限外になっていると、再生できなくなります。 (☞ はじめに ⑥ 14 ページ)
音が歪んで聞こえる	録音時のビットレートが低い。	高いビットレートで録音してください。
トラックタイトルやアーティストネームが正しく表示されない。	パソコンで入力したタイトルに本機が対応していない文字がある。	パソコンでタイトルを入力し直してください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「マイクを確認ください」	マイクが接続されていない。	付属のマイクをきちんと差し込んでください。 ( 音の調節 ⑩ 100 ページ)
「スピーカーを確認ください」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。 ( 取付説明書) 付属のマイクを正しくセットしてください。 なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「測定エラーです」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属のマイクを正しくセットしてください。

CD/MP3 ファイルのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-00」 「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ設定されているとき。	CDを交換してください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れているとき。 CDにキズやひびがあるとき。	CDの汚れをふき取ってください。 ( その他 ① 115 ページ) CDを交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-17」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用しているとき。	CD-R/CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-17」 「ERROR-30」「ERROR-A0」 「ERROR-B0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入したとき。	CD-ROMを交換してください。
「Can't play」	再生できないMP3ファイルのとき。	再生可能なMP3ファイルに切り換えてください。
「HEAT」	本機の内部温度が高くなったとき。	内部温度が下がるまでお待ちください。
「No audio」	何も録音されていないCD-ROMを挿入したとき。 再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入したとき。	MP3ファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。 CD-ROMを交換してください。

メモ

マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

ミュージックサーバーのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-23」 「SERVER ERROR-23」	ミュージックサーバーのハードディスクが故障したとき。	もう一度、同じ操作を行ってください。
「ERROR-24」 「SERVER ERROR-24」	ミュージックサーバーに異常(データの損傷など)があるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、ミュージックサーバー再生を一度やめてから、もう一度ミュージックサーバー再生にしてください。
「ERROR-30」「ERROR-A0」 「ERROR-A1」「ERROR-B0」 「SERVER ERROR-30」 「SERVER ERROR-A0」 「SERVER ERROR-A1」 「SERVER ERROR-B0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、ミュージックサーバー再生を一度やめてから、もう一度ミュージックサーバー再生にしてください。
「Can't play」	本機で再生可能な音楽データでないとき。	別の音楽データに切り換えてください。
「Expired」	再生制限(再生期限や再生回数など)が切れている音楽データを再生しようとしたとき。	別の音楽データに切り換えてください。
「No audio」	ミュージックサーバーに何も録音されていないとき。	ミュージックサーバーは、録音してからお使いください。
「No PlayList」	選んだプレイリストモードに再生可能な音楽データの入ったプレイリストファイルがないとき。	別のプレイリストモードに切り換えてください。
「REMAIN 0」	規定回数を超えてチェックアウトしようとしているとき。	別の「メモリースティック」にチェックアウトした曲をチェックインしてください。(チェックイン/チェックアウト) (<small>▶</small> その他 128 ページ)
「SERVER READ ERROR」	何らかの原因で曲の情報を正しく読みとれなかったとき。 ミュージックサーバーに異常(データの損傷など)があるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、ミュージックサーバー再生を一度やめてから、もう一度ミュージックサーバー再生にしてください。
「SERVER WRITE ERROR」	何らかの原因で曲の情報やFATを正しく書き込めなかったとき。	もう一度、同じ操作を行ってください。
「TEMP」	本機の内部温度に異常があるとき。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。

録音時のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-56」	SDMI 違反のとき。	別の曲を選んでください。
「ERROR-59」	ミュージックサーバーが管理できるデジタル録音単位別プレイリストファイルの総数を超えて録音しようとしたとき。	デジタルモードから聞かなくなったプレイリストファイルを消去してください。
「ERROR-5A」	ミュージックサーバーが管理できるアナログ録音単位別プレイリストファイルの総数を超えて録音しようとしたとき。	アナログモードから聞かなくなったプレイリストファイルを消去してください。
「ERROR-5B」	ミュージックサーバーが管理できるアーティスト別プレイリストファイルの総数を超えて録音しようとしたとき。	アーティストモードから聞かなくなったプレイリストファイルを消去してください。
「ERROR-5-」	ミュージックサーバーが1日で管理できる録音日付別プレイリストファイルの総数を超えて録音しようとしたとき。	オールモードから聞かなくなったプレイリストファイルを消去してください。
「Can't copy」	CD-R などコピー禁止のディスクから録音しようとしたとき。	コピー可能なディスク (一般の音楽CD) に交換してください。
「CD-ROM」	CD-ROM から録音しようとしたとき。	音楽CD に交換してください。
「Defect」	CD の音飛びが同じところで3回起きたとき。	CD の汚れ、くもり、水滴をふき取ってください。 (☞ その他① 115 ページ)
「M.Server full」	ミュージックサーバーに録音するのに十分な空きがないとき。	聞かなくなった曲を消去してください。
「No disc」	本機にCDが入っていないとき。	CDを挿入してください。
「NO SIGNAL」	ミュージックサーバーにデジタル信号を入力できないとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、リセットボタンを押してください。 (☞ はじめに⑤ 13 ページ)
「PlayList full」	ミュージックサーバーが管理できるプレイリストファイルの総数を超えて録音しようとしたとき。	聞かなくなったプレイリストファイルを消去してください。
「Retry」	CD の音飛びが起きたとき。	CD の汚れ、くもり、水滴をふき取ってください。 (☞ その他① 115 ページ)

次ページへつづく

録音時のエラー表示 (つづき)

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「SERVER READ ERR」	何らかの原因で曲の情報やFATを正しく読み込めなかったとき。	もう一度、同じ操作を行ってください。
「SERVER WRITE ERR」	何らかの原因で曲の情報やFATを正しく書き込めなかったとき。	もう一度、同じ操作を行ってください。
「TEMP」	低温のため、録音できない。 本機の内部温度に異常があるとき。	本機の温度が上がるまでお待ちください。 本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「Time short」	ミュージックサーバーの残り時間が、録音しようとしているディスクや曲より短いとき。	聞かなくなった曲を消去してください。
「TOC ERR」	CDのTOCが読めないとき。	CDを交換してください。
「Track full」	1つのプレイリストファイルに400曲を超えて録音しようとしたとき。	一度録音待機状態を解除してください。

TOC について

TOC (Table Of Contents) とは、CDやMD、DATなどに収録されている曲数、演奏時間、タイトルなどの音声信号以外の情報のことです。

FAT について

FAT (File Allocation Table) とは、ミュージックサーバーや“メモリースティック”などに記録された音楽データやプレイリストファイルを管理する領域のことです。

メモ

上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、ミュージックサーバーのエラーメッセージをご覧ください。

“メモリスティック”のエラー表示

メッセージ(エラー番号)	原因	処置
「ERROR-24」 「STICK ERROR-24」	“メモリスティック”に異常(データの損傷など)があるとき。	“メモリスティック”を交換してください。
「ERROR-27」 「STICK ERROR-27」	“メモリスティック”を裏返し たり、間違った向きで挿入して いるとき。	“メモリスティック”を取り出し、向 きを確認してから、入れ直してくだ さい。それでも同じメッセージが表示される場 合は、他の“メモリスティック”と交 換してください。
「ERROR-30」「ERROR-A0」 「ERROR-A1」「ERROR-B0」 「STICK ERROR-30」 「STICK ERROR-A0」 「STICK ERROR-A1」 「STICK ERROR-B0」	電気系、機構系の故障が考えら れるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにし てからONにするか、“メモリスティッ ク”再生を一度やめてから、もう一度 “メモリスティック”再生してくだ さい。
「ERROR-55」 「STICK WRITE ERROR」	何らかの原因で曲の情報を正しく 書き込めなかったとき。	もう一度、同じ操作を行ってください。 それでも同じメッセージが表示される場 合は、“メモリスティック”を交換し てください。
「Can't play」 「WARNING-14」	本機で再生可能な音楽データで ないとき。	別の音楽データに切り換えてください。
「Expired」	再生制限(再生期限や再生回数な ど)が切れている音楽データを再 生しようとしたとき。	別の音楽データに切り換えてください。
「FORMAT ERROR」	“MGメモリスティック”以外 の“メモリスティック”を挿 入したとき。 本機で再生できないフォーマット の“メモリスティック”(パソ コンでフォーマットした場合など) を挿入したとき。	“MGメモリスティック”を挿入して ください。 “メモリスティック”を取り出し、も う一度入れ直してください。それでも同 じメッセージが表示される場合は、他の “メモリスティック”と交換してくだ さい。
「MS Locked」 「Protected」	誤消去防止スイッチが「LOCK」 になっているとき。	誤消去防止スイッチを解除してください。
「No audio」	音楽データの入っていない“MG メモリスティック”、もしくは “MGメモリスティック”以外 の“メモリスティック”を挿 入したとき。	音楽データの入っている“MGメモリー スティック”を挿入してください。
「No Stick」	“メモリスティック”が挿入され ていないとき。	“メモリスティック”を挿入してくだ さい。

次ページへつづく

“メモリースティック”のエラー表示 (つづき)

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「Stick full」	“メモリースティック”に十分な空きがないとき。	“メモリースティック”を交換するか、聞かなくなった音楽データを消去してください。
「STICK READ ERROR」	何らかの原因で曲の情報を正しく読みとれなかったとき。 “メモリースティック”に異常(データの損傷など)があるとき。	“メモリースティック”を取り出し、もう一度入れ直してください。それでも同じメッセージが表示される場合は、他の“メモリースティック”と交換してください。
「Track full」	400曲を超えてチェックアウトしようとしたとき。(“メモリースティック”には、400曲までしか記録できません。)	聞かなくなった曲を消去するか可能であればチェックインしてください。
「WARNING-16」	インターネットなどの電子配信で購入した音楽データにまだ再生許可が与えられていないとき。	別の音楽データに切り換えてください。
「WARNING-73」	チェックインしようとした音楽データがミュージックサーバーから消去されているとき。	本機からチェックアウトした音楽データを消去すると、本機にチェックインすることはできません。
「WARNING-74」	チェックイン可能な音楽データでないとき。 本機以外で記録した音楽データを本機にチェックインしようとしたとき。	チェックインすることはできません。 本機以外で記録した音楽データを本機にチェックインすることはできません。

FAT について

FAT (File Allocation Table) とは、ミュージックサーバーや“メモリースティック”などに記録された音楽データやプレイリストファイルを管理する領域のことです。

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理などのサービス対応時に、お客様が録音されたデータが消失することがあります。製品の仕様上、録音されているデータの内容を補償することはできません。あらかじめご了承ください。

本製品の故障や不具合により、破損または消失した録音データの補償については、ご容赦ください。(現時点では音楽データのバックアップや修復には対応していません。)

本製品は、ハードディスクの増設やお客様によるハードディスクの交換はできません。

チェックイン/チェックアウト

ハードディスク(ミュージックサーバー)上で管理している音楽データを、“メモリースティック”などの記録メディアに転送することを「チェックアウト」と言います。チェックアウトした音楽データをハードディスクに戻すことを「チェックイン」と言います。(チェックアウトしたデータをパソコンなどの他の機器にチェックインすることはできません。)

特別に利用方法に関する条件が付加された音楽データを除き、SDMIの基本ルールでは、音楽データは1回のコピーで4部まで作成可能です。(1部はハードディスク内に保存され、残りの3部を“メモリースティック”へチェックアウトすることができます。)

バケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps(bit per second)です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式(ATRAC3など)での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3とATRAC3のように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

“マジックゲートメモリースティック”

著作権保護技術“MagicGate(マジックゲート)”を搭載した“メモリースティック”の名称です。音楽などの著作権保護技術が必要なデータの記録・再生を行うためのIC記録メディアです。

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめでした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

“メモリースティック”

小型、軽量のIC記録メディアです。著作権保護技術“MagicGate”を搭載した“マジックゲートメモリースティック(MGメモリースティック)”と搭載していない一般の“メモリースティック”があります。“メモリースティック”対応の機器で画像や音楽などのデータを記録することができます。また、1枚の“メモリースティック”に異なる種類のデータを混在して記録することも可能です。

ATRAC3(アトラックスリー)

「Adaptive Transform Acoustic Coding3」の略です。高音質と高圧縮を両立させたオーディオ圧縮技術です。音楽データをCDの約1/10に圧縮可能で、メディアの小型化が可能になります。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集ができます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660 フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1：

ファイル名は、8.3形式(名前は半角英文大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字)

レベル2：

ファイル名は、最大31文字(区切り文字、“.”と拡張子を含む)で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet：

ファイル名は、最大で64文字

Romeo：

ファイル名は、最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子(.m3u)で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

MagicGate (マジックゲート)

“マジックゲートメモリースティック”に記録するデータの暗号化と、“マジックゲートメモリースティック”対応機器の相互認証を行う著作権保護技術です。“マジックゲートメモリースティック”と、対応機器の間で認証ができた場合のみ、“マジックゲートメモリースティック”の記録・再生が可能となります。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO(国際標準化機構)のワーキンググループ(MPEG)の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮することができます。

SCMS (エスシーエムエス)

「Serial Copy Management System」の略です。CDなどからデジタル録音した曲などを、さらにハードディスク(ミュージックサーバー)に録音するといった孫コピーを防止するために開発された連続複製防止システムです。

SDMI (エスディーエムアイ)

「Secure Digital Music Initiative」の略です。全世界に共通して使用できる著作権保護技術の統一方式を開発するために、レコード業界、コンピューター業界、民生用エレクトロニクス業界など約130社以上の企業・団体が集まり、構成されたフォーラムです。音楽データの違法な使用を阻止し、合法的な音楽配信サービスを促進するための枠組み作りを行っています。著作権保護技術「MagicGate」は、SDMIの規格に準拠しています。

VBR (バイビーアール)

「Variable Bit Rate(可変ビットレート)」の略です。一般的にはCBR(固定ビットレート)が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

CD プレーヤー部

形式 : コンパクトディスク
オーディオシステム

使用ディスク : コンパクトディスク

信号
フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
量子化ビット数 : 16 ビット直線

周波数特性 : 5 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

S/N : 94 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)

ダイナミック
レンジ : 92 dB (1 kHz)

MP3 デコード : MPEG-1 Audio Layer 3 準拠

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

HDD 部

HDD 容量 : 10 GB

録音/再生信号
圧縮方式 : ATRAC3

周波数特性 : 20 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

平均シーク
タイム : 13 ms

“メモリースティック” プレーヤー部

形式 : マジックゲートメモリースティック

再生信号
圧縮方式 : ATRAC3

周波数特性 : 20 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

FM チューナー部

受信周波数帯域 : 76.1 ~ 89.9 MHz

実用感度 : 9 dBf (0.8 μ V/75 Ω 、
モノラル、S/N : 30 dB)

S/N 50 dB
感度 : 14 dBf
(1.4 μ V/75 Ω 、モノラル)

S/N : 70 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率 : 0.3 %
(65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)

周波数特性 : 30 ~ 15,000 Hz (± 3 dB)

ステレオ

セバレーション : 40 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AM チューナー部

受信周波数帯域 : 522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)

実用感度 : 18 μ V (S/N : 20 dB)

実効選択度 : 50 dB (± 9 kHz)

オーディオ/DSP部

最大出力 : 50 W × 4
定格出力 : 22 W × 4
(50 ~ 15,000 Hz、5 % THD)

負荷

インピーダンス : 4 (4 ~ 8 使用可能)

プリアウト

最大出力レベル : 2.2 V

出力

インピーダンス : 1 k

ラウドネス

コンター : 10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
(ボリューム : -30 dB)

イコライザー

(13バンド

グラフィック

イコライザー) : 周波数 : 50 Hz、80 Hz、
125 Hz、200 Hz、
315 Hz、500 Hz、
800 Hz、1.25 kHz、
2 kHz、3.15 kHz、
5 kHz、8 kHz、
12.5 kHz

調整幅 : ± 12 dB (2 dB)

オートイコライザー

(13バンド

グラフィック) : 周波数 (F + R + SW) :

50 Hz、80 Hz、
125 Hz、200 Hz、
315 Hz、500 Hz、
800 Hz、1.25 kHz、
2 kHz、3.15 kHz、
5 kHz、8 kHz、
12.5 kHz

調整幅 : +6 dB ~ - 12 dB (2 dB)

ネットワーク

ハイパス

フィルター : 周波数 (F + R) :

50/63/80/100/125 Hz

スロープ : - 12 dB/oct.

サブウーファー

出力 : 周波数 : 50/63/80/100/125 Hz

スロープ : - 18 dB/oct.

調整幅 : - 24 dB ~ +6 dB (1 dB)

位相 : NORMAL/REVERSE

共通部

使用電源 : DC 14.4 V
(10.8 ~ 15.1 V 使用可能)

アース方式 : マイナスアース方式

最大消費電流 : 10.0 A

外形寸法

(取付寸法) : 178 (W) × 50 (H) × 160 (D) mm

(ノーズ寸法) : 170 (W) × 46 (H) × 32 (D) mm

質量 (本体) : 1.9 kg (コードユニット含まず)

質量 (電源

ユニット) : 0.2 kg (コードユニット含まず)

付属品

本体用コード

ユニット : 1

電源ボックス : 1

電源ボックス用

コードユニット : 1

取付ネジ類 : 1 式

マイク : 1

リモコン : 1

単 4 形乾電池

(R03) : 2

取扱説明書 : 1

取付説明書 : 1

安全上のご注意 : 1

保証書 : 1

ご相談窓口・

修理窓口のご案内 : 1

メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口

 **0070-800-8181-11**

カタログのご請求窓口

 **0070-800-8181-33**

<ご注意> PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話、および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。
修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内
<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2001

< KMMZF/01J00000 > < CRA3223-B >